

美郷村閉村記念誌

# 郷の記憶



徳島県 美郷村

美郷村閉村記念誌

# 郷の記憶



徳島県 美郷村

美郷村閉村記念誌

# 郷の記憶



# 山々に深く抱かれた美しき故郷。

北に吉野川北岸の阿讃山脈、南には剣山へとつながる山稜。

美郷村は、幾層にも連なる山並みに囲まれた村です。

四季折々の彩りを楽しませてくれる野草や花木、

可愛いさえずりを聞かせてくれる野鳥たち、

命を輝かせる人々や生き物たち。それらをやさしく包む緑の里。

山肌に広がる石積みの段畑では梅や柚子、スタチなど豊かな産物を育みます。

そして、たくさんの恵みをもたらす自然への敬愛を胸に、

人々は緑の森を大事に育ててきました。





## 爛漫の野、麗らかな里。

森の奥で雪どけ水が清流に注ぎ始めると、  
春を告げる梅の花が、里を紅白に染めます。  
風が運ぶ梅の甘い香りに誘われ、  
野の花が咲き競い、木や草はいっせいに芽吹きます。  
瑞々しい命の美しさにあふれた季節です。



## 谷間に光が舞い、人が集う。

新樹が目につく夏、谷間のせせらぎで、  
源氏ボタルが乱舞を繰り広げます。  
村は、ホテルのショーや涼を求めて水辺で憩う人々、  
キャンプや釣りで自然と戯れる人々で賑わいます。  
ミョウガや梅の実りもうれしい季節です。

秋



豊穰と紅葉が村を染める。

受け継がれてきた獅子太鼓や獅子舞、まわり踊り。

収穫の秋、トーン トントンと響く祭り囃子に

村人たちは胸を熱くします。

平八幡神社の銀杏が黄金色になり、山は紅葉の粧いへ。

伝統と自然の豊かさが際立つ、晴れの季節です。

冬



聖なる美しさが感動を呼ぶ。

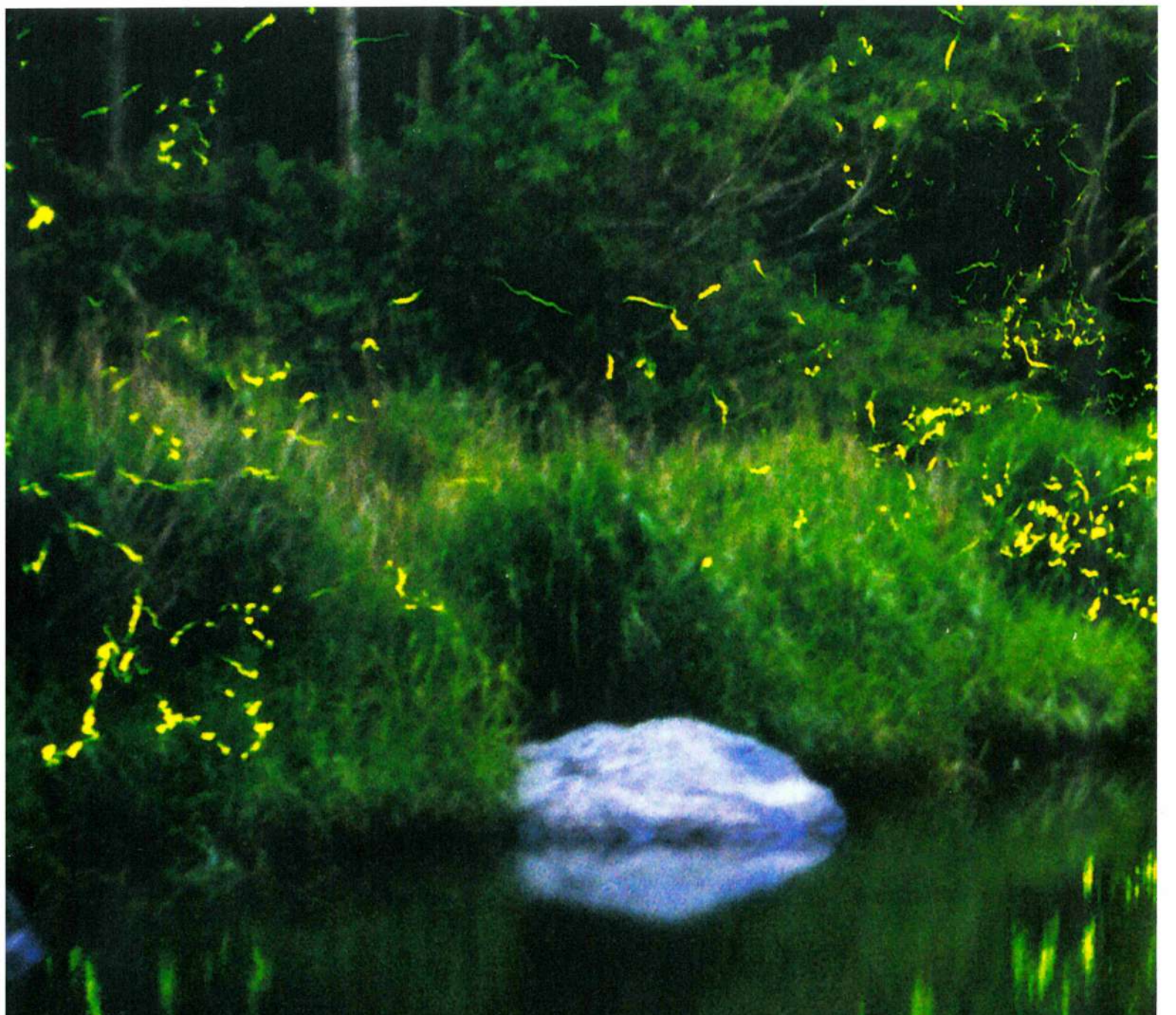
山からの冷たい風が木の葉を踊らせるると、

やがて山眠る静かな冬が訪れます。

天へと続く石積みがライトアップされた光景、

真っ白な雪が作り出した墨絵の風景。

静寂の中に広がる感動的な景色に心洗われる季節です。



## 懐かしい風景に心潤おう、清流の里。

美郷村は「美郷のホタルとその生息地」として

国の天然記念物に指定された村。

初夏の夜、川田川と東山谷川という二つの清流では

川から光りが湧き上がるような幻想的な情景が

無数のホタルによって描きだされます。

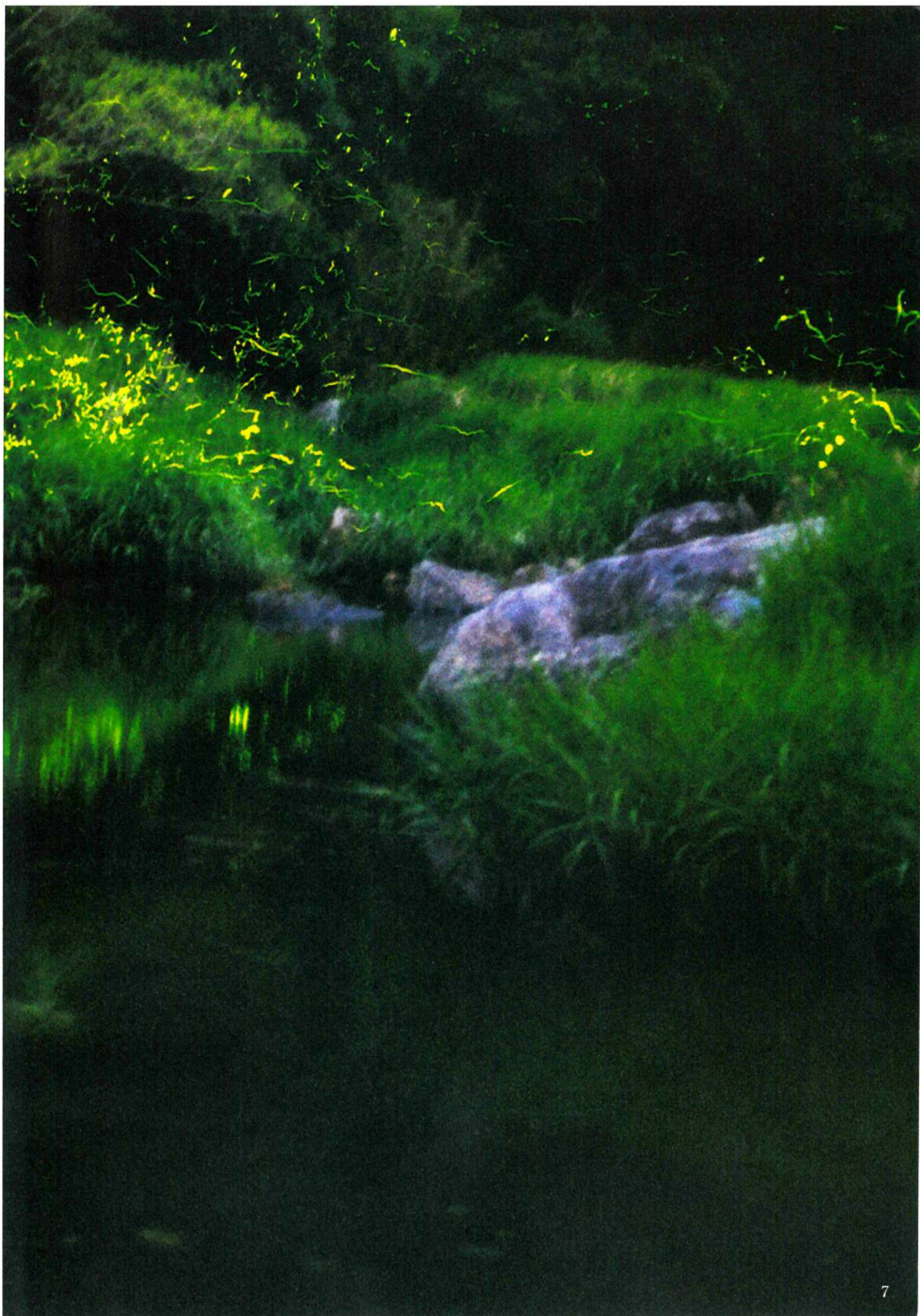
ホタルの乱舞だけでなく、秘境の神秘を漂わせる滝、

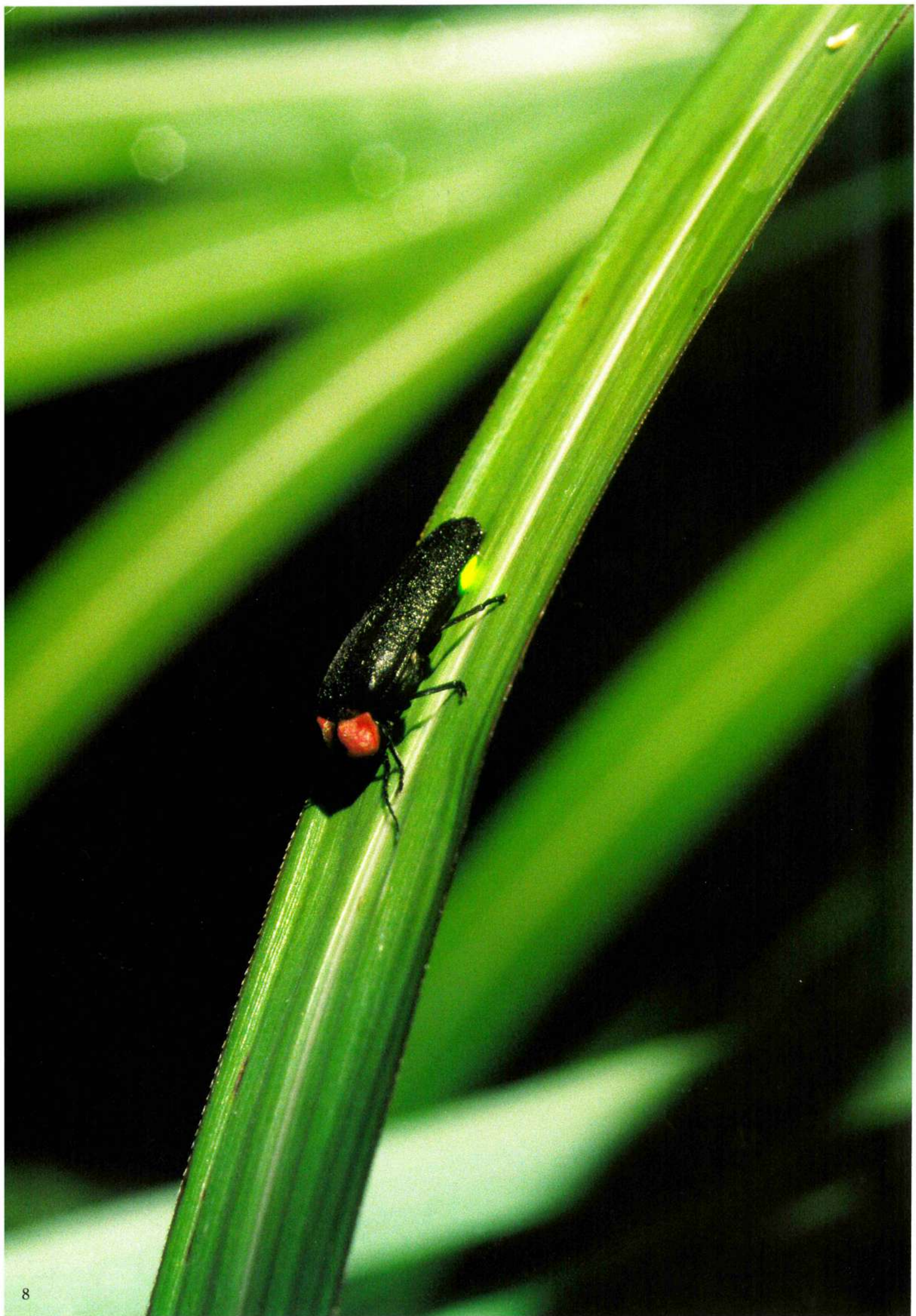
せせらぎの音、カジカガエルの鳴き声、

生物の住処である淵、子どもたちが川で遊ぶ光景…。

ここには、清流を守り続けてきた里ならではの宝物があります。







# ホタルの棲む郷



全国ホタル研究大会開催



ホタルまつり



ホタルまつりで魚のつかみどりを楽しむ子どもたち

# 祭り



梅の花まつり



平八幡神社の獅子舞



広幡八幡神社（上の宮）



ほたる祭り



川田川のこいのぼり



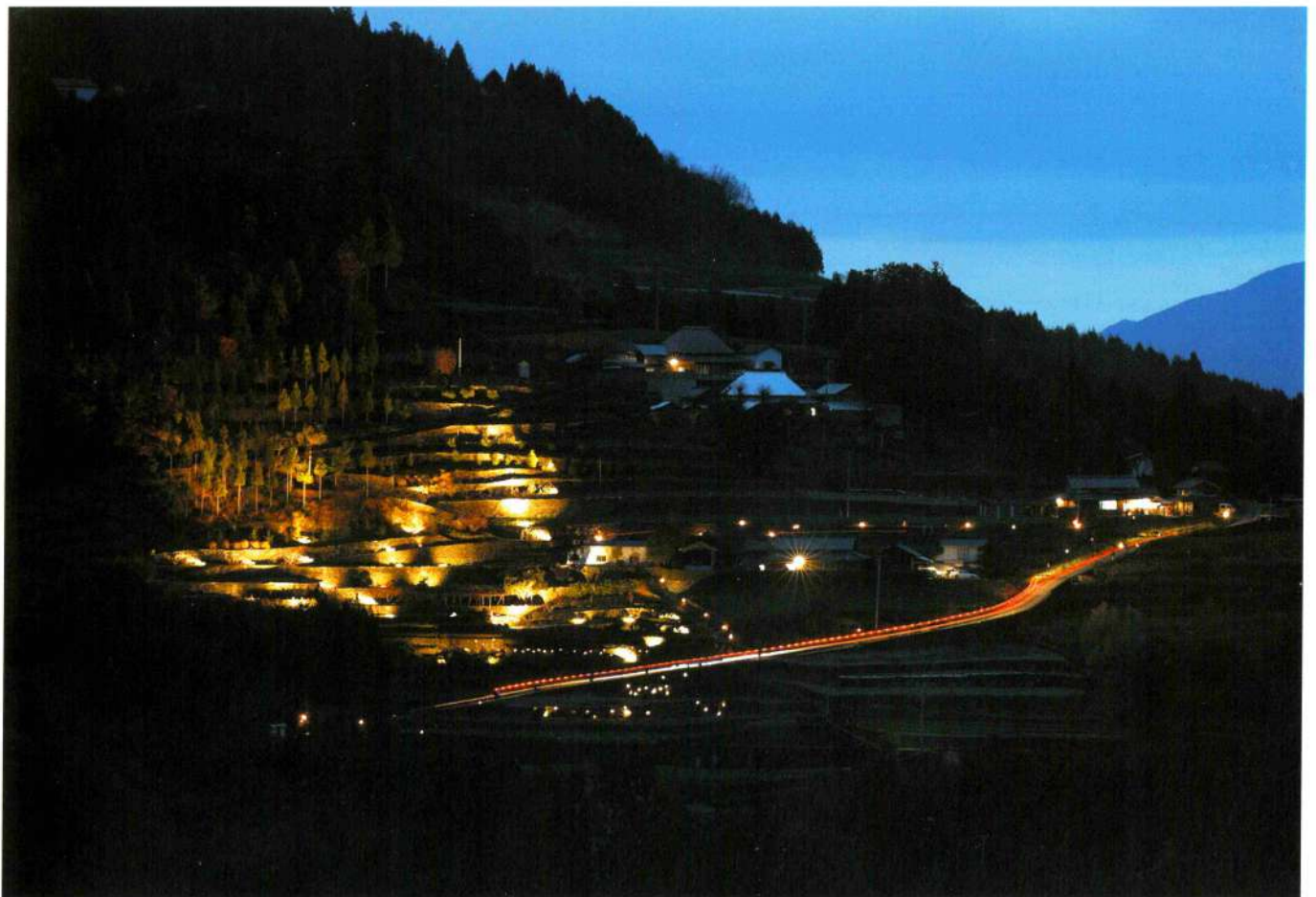
獅子舞

# 高開石積み





石積みの雪景色



ライトアップで幻想的な表情を見せる石積み風景

# 特産品



## 茶

清流立ちこめる朝霧と穏やかに陽の当たる山の斜面。美郷村ではこの気候・風土を生かして、おいしいお茶を生産しています。



## 梅くらべ

特産の梅を素材に生まれた美郷村名物「梅くらべ」。うめのし・梅のしそ巻漬・うめの甘酢漬・小梅のうめぼし・大梅のうめぼしと、六つの美味が楽しめます。



## 源氏ホタル

清流の里・美郷村の初夏の風物詩。毎年五月下旬から六月中旬にかけて、川田川の上流や東山の谷間に、国指定天然記念物の「源氏ボタル」が飛び交います。六月にはホタル祭りも開催され、六〇〇〇人も観光客で賑わいます。



## すだち

全国的にも有名な徳島県特産の柑橘類「すだち」。小粒で堅いグリーンの実からは、森林のような爽やかな香りと酸味の強い果汁があふれ、料理の味をいっそう引き立てます。



## ウメ加工

梅工房のほか、梅の栽培農家が行っています。



## みょうが

山間の限られた農地を効率的に利用して、みょうがの栽培が行われています。みょうがは、梅、茶とともに美郷村の主要作物であり、生産量は県下第1位を誇ります。



# 福祉・教育



元気いっぱいの子どもたち



介護予防・健康づくり教室



ゲートボール大会



総合検診



健康生きがい園芸教室



デイサービス



陶芸教室

## 村のプロフィール

古来、美郷村を含む麻植郡山一帯は「種野山」と総称されていたが、天正13年(1585)蜂須賀氏が入国し領国支配の一環として「御国村山定め」を行ったとき、木屋平、川井、三ツ木、中村、別枝、桁山、東山、種野山、宗田山、川田山の10カ村に分割して村定めが行われた。これは「麻植十山」と呼ばれ、美郷村の原形となりました。その後、藩政時代に6村となり、明治22年町村制実施に伴い、中枝村、三山村、東山村の3つの村に統合され、昭和30年、3村を分割統合して、現在の美郷村が誕生しました。梅、スダチ、ミョウガ、茶などの栽培を中心とした農業と、林業が基幹産業となっています。

## 村章



美郷村がその名のごとく優雅なうちにも強固な団結によって将来の飛躍発展に前進する意を象徴したものです。10周年を機に村章を定めることとなり、図案を一般公募。県内外から寄せられた500点に及ぶ図案の中から厳選し、昭和41年5月5日制定されました。

## 村のシンボル



村の木  
けやき



村の花  
うめ



村の鳥  
うぐいす



# 美郷村のあゆみ

昭和30年、美郷村は平和にして希望に満ちた  
理想郷づくりを目指して歩みを始めました。

村名には「美しい故郷を忘れるな」という思いが込められました。

美しく豊かな自然や先人たちが残してきた文化、

懐かしい里の風景、温かな人情を守りながら、

産業の活性化や明るく住みやすい村づくりを推進してきたのです。

山あいの小さくも美しい村、美郷村の48年の姿を綴り、

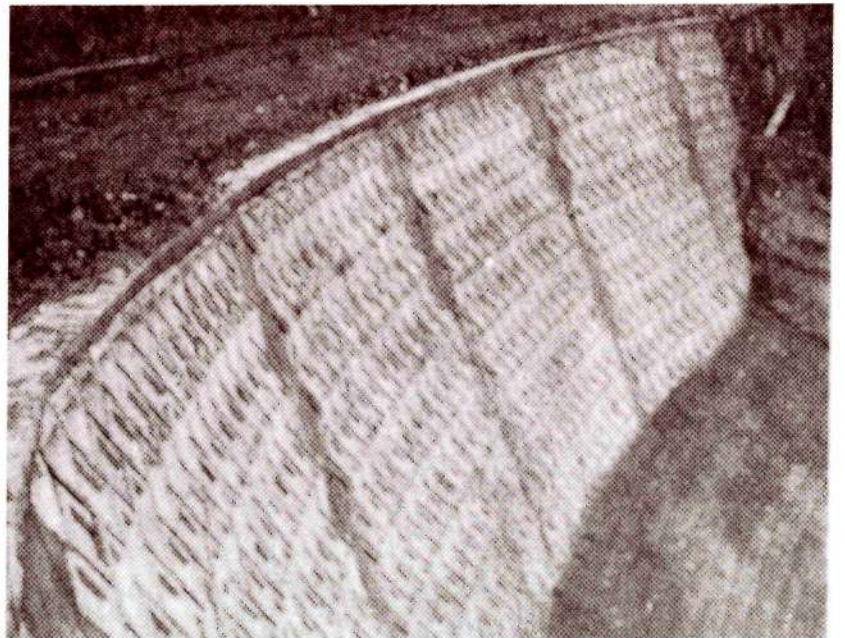
その足跡を「郷の記憶」として次代へと伝えます。

# 昭和30年代

国連加盟、東京オリンピック開催、東海道新幹線開業と、  
日本がめざましく発展し、新しい風の吹いた時代。  
地方自治制の再編成の気運が強まる中、美郷村が産声を上げ、  
町役場や学校校舎の新築や、簡易水道の整備、県道改修、  
移動保険所や診療所の開設など、  
着々と村づくりが進められていきました。



種野小学校新設工事



村道上山線新設改良工事

# 昭和40年代

日本の人口は1億人を越え、経済はめざましく成長。  
 東京、大阪などが「メガロポリス」となっていく反面、  
 美郷村をはじめ四国・中国・九州の農山村は過疎化していきました。  
 美郷村では村営バスの運行などの過疎化対策、  
 道路網や教育・福祉施設の整備など、  
 豊かな暮らしを実現できるまちづくりが図られるとともに、  
 農業を中心とした産業振興が推進されました。



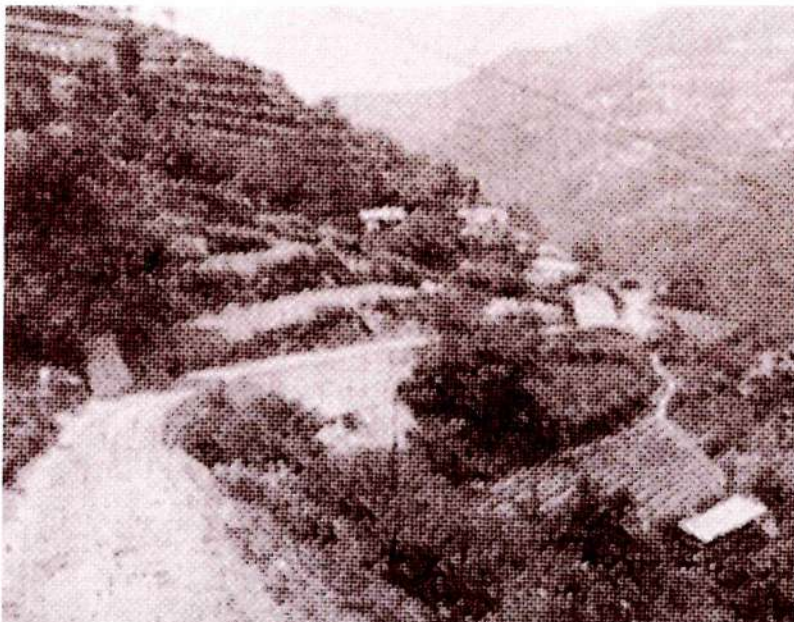
村道小竹線新設



老人クラブ結成



農業後継者クラブ結成



村道城戸線新設



国営開拓パイロット事業着工



美郷中学校建設工事完成



美郷村史発行



稚蚕共同飼育所建築工事完成



中学校寄宿舎建設工事完成



梅撰果場建設工事完成



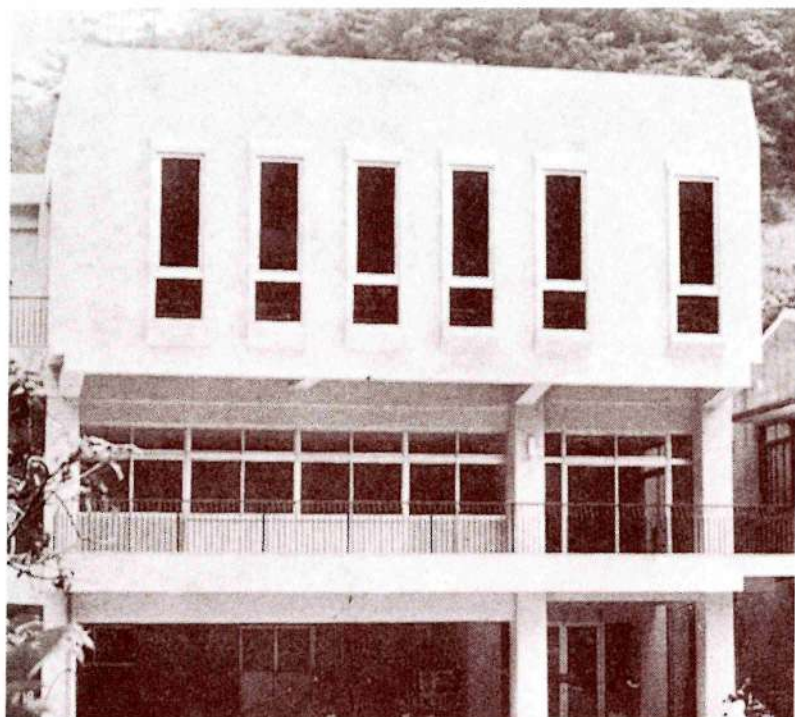
村営バス運行開始



広域消防業務開始



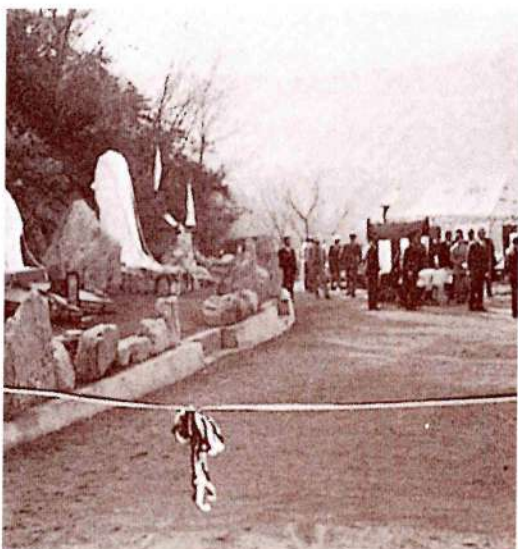
地域集団電話設置



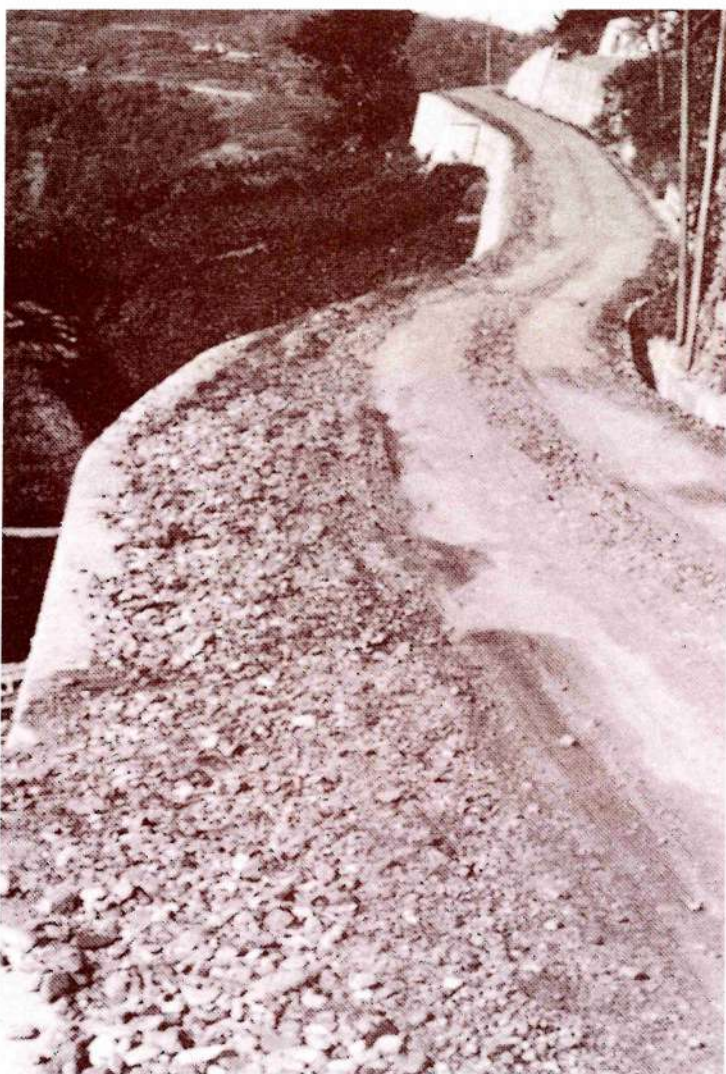
中央公民館建設工事完成



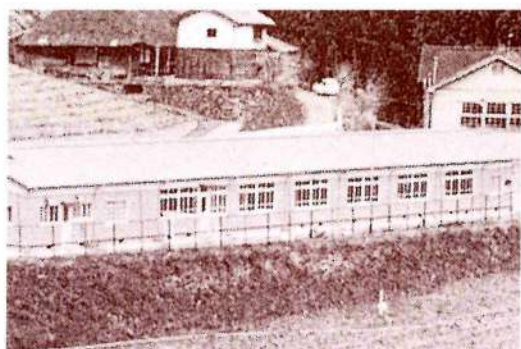
東山小学校プール新設



自衛隊建設道路完成



村道張線新設



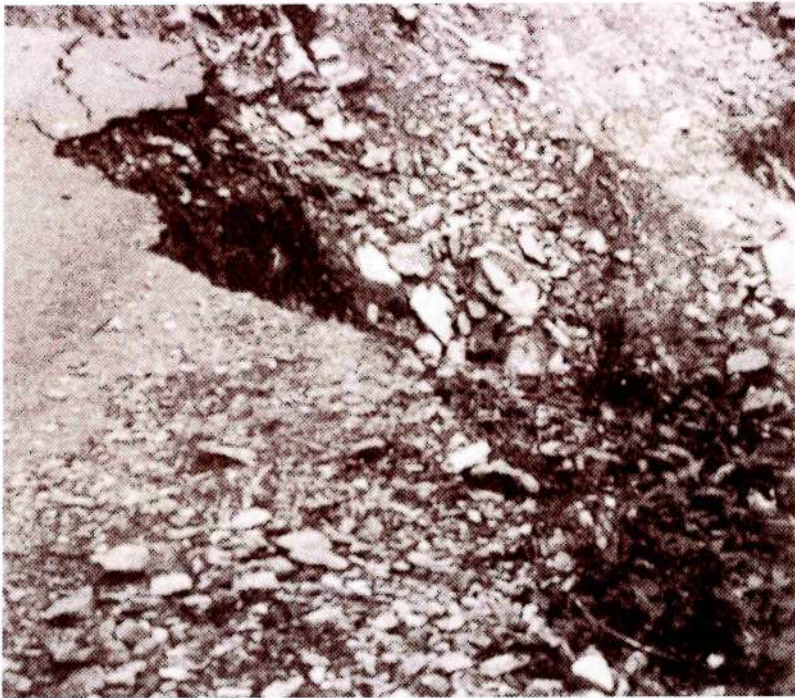
中村小学校新校舎新築完成



県道山川海南線国道昇格

# 昭和50年代

昭和50年と51年の台風来襲で、美郷村全域は未曾有の大被害に。50年代早々は災害の復旧事業を懸命に進める日々でした。円高不況という経済危機の影響が容赦なく押し寄せるといふ多難な幕開けながらも、村道や農道の新設、学校施設や集落センター、集会所などの整備が進められました。また、レクリエーション施設の建設が脚光を浴びました。



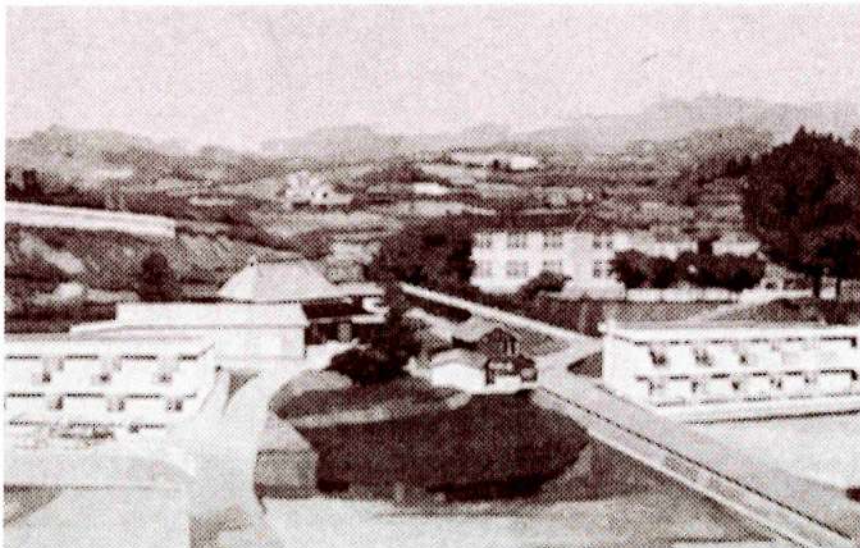
台風6号による大災害



老人憩いの家新築完成



教員住宅新築完成

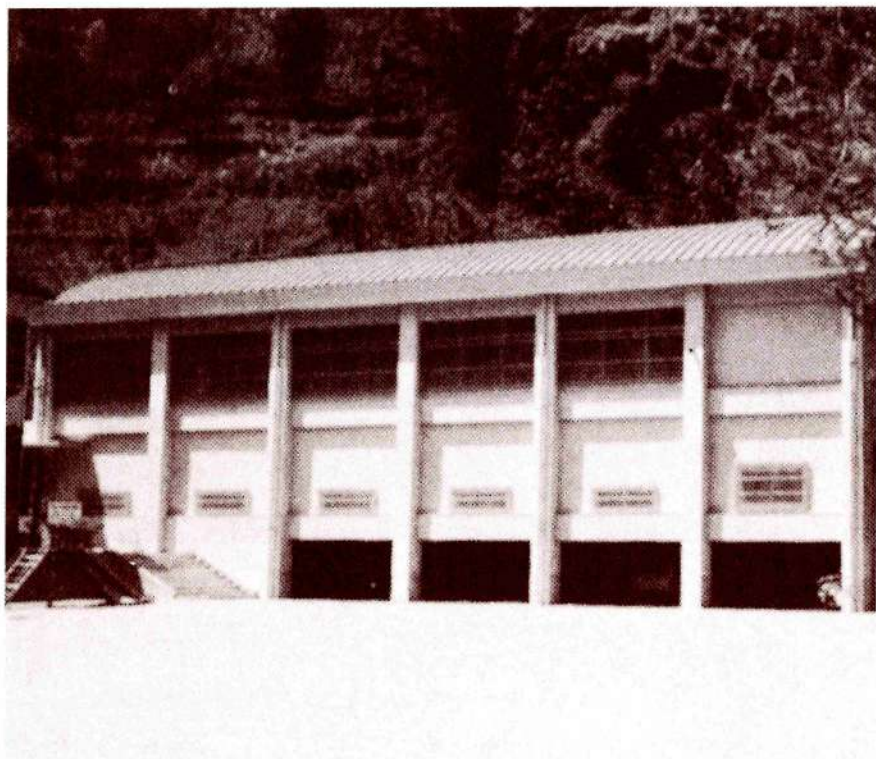


公営住宅新築完成



種野小学校プール新設

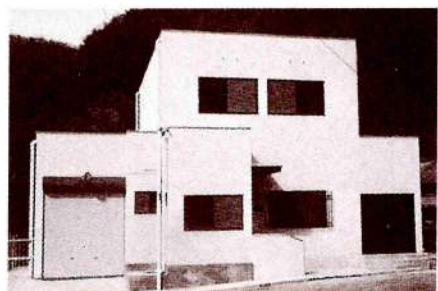




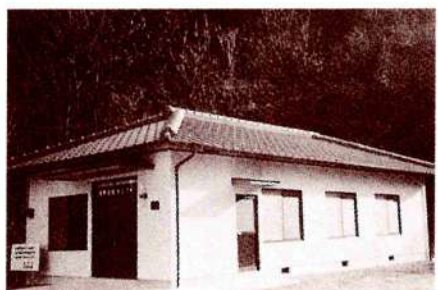
中枝小学校体育館新築完成



種野小学校新校舎新築完成



川俣集落センター新築完成



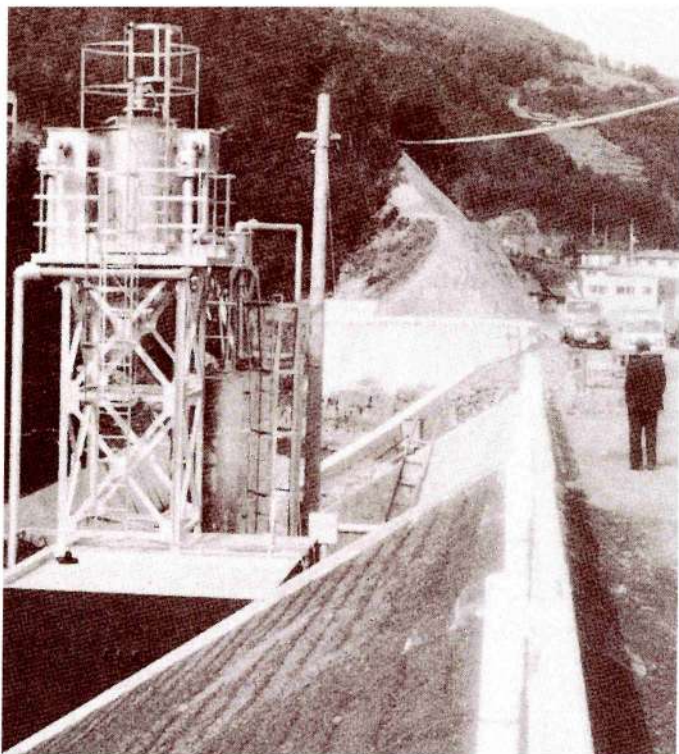
種野集落センター新築完成



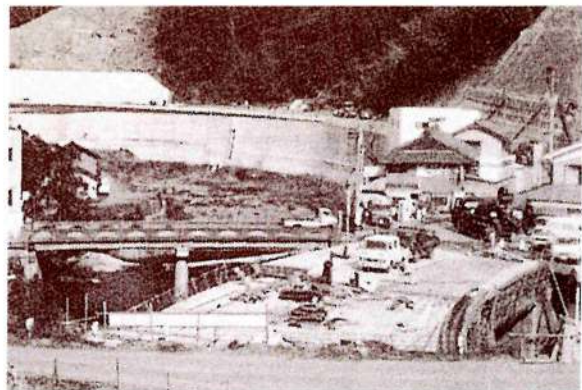
東山小学校新校舎・体育館新築完成



ヘルスランド美郷完成



川俣簡易水道移設工事完成



国道193号開通

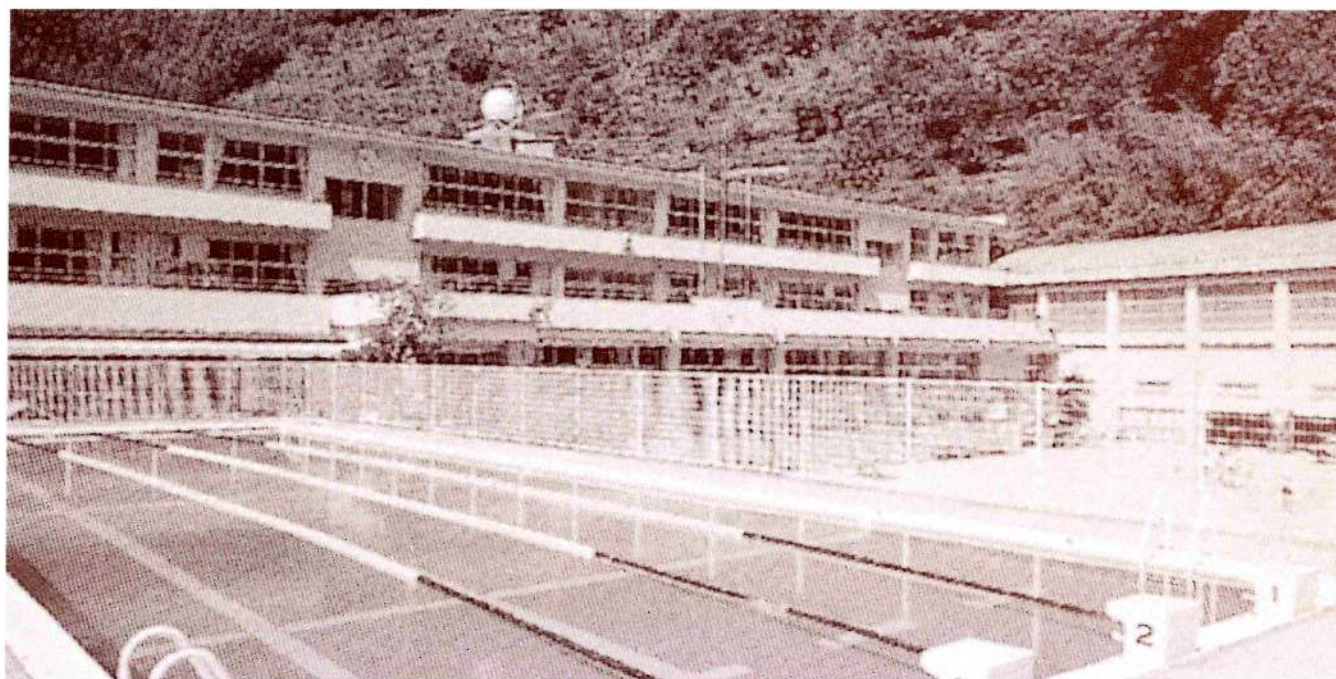


村営バス運行開始

# 昭和60年代

貿易摩擦や行政改革など、厳しい問題を抱える社会情勢、男女雇用機会均等法や、国鉄と電々公社の民営化など、時代の大きな変化を予感させました。

さまざまなブームやフィーバーが起り、瀬戸大橋開通で四国に脚光が集まりました。人々のライフスタイルや価値観が多様化する中、美郷村は心豊かな住みよい村づくりを目指しました。



中枝小学校新校舎・プール新築完成



公営川俣団地新築完成



農道勘蔵線新設



林道栩谷線新設



林道倉羅月野線新設

# 平成の時代

日本ではバブル経済の崩壊や政界再編、政権移動劇。  
世界に目を向ければ、ベルリンの壁崩壊や湾岸戦争勃発。  
平成は激動の時代と言えます。  
経済全体が低迷を続け、美郷村においては過疎化が進む中、  
住民サービスと財源の確保のため、麻植郡4カ町村での  
合併の道を歩み始めました。



第1回全国美しい村サミットが美並村で開催



デイサービスセンター新築完成



村道平田平線改良



村道刷石線改良



ふるさとセンター新築完成



村道中谷線改良



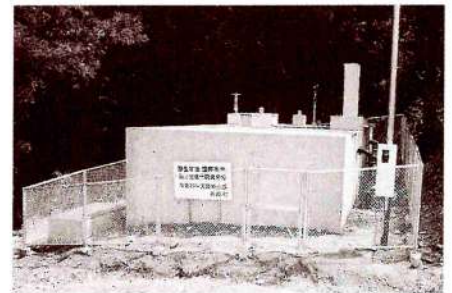
ふれあい公園竣工



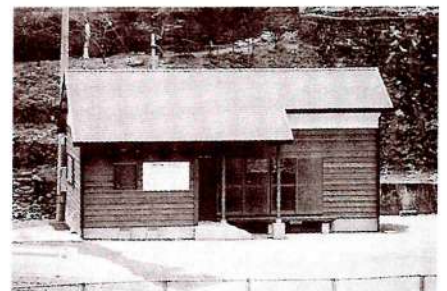
福祉センター完成



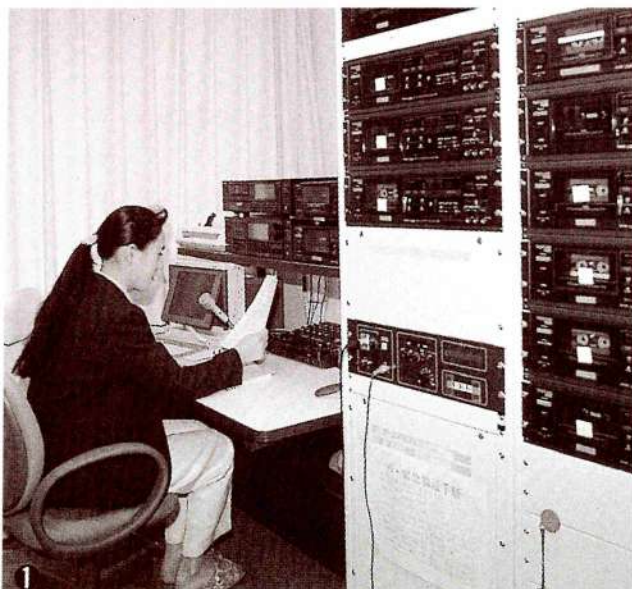
第9回全国美しい村サミット美郷大会開催



中央簡易水道完成



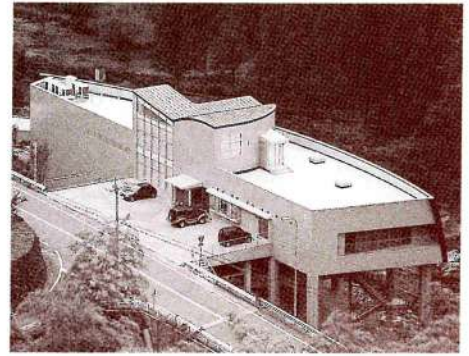
児童ふれあいサロン完成



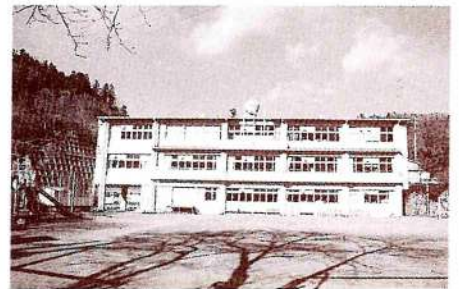
オフトーク通信施設開局



美しい村連邦を建園



ほたる館完成



東山幼小学校休校



麻植郡合併協議会設置記念式典



合併協定書調印式

吉野川市誕生への歩み。  
住民基本台帳ネットワークシステムを稼動で利便性アップ。  
麻植郡4町村の合併協定調印、合併へのステップ。

# 村の成人式



※村役場に保管されていた集合写真のみで構成されています。



昭和45年



昭和46年



昭和47年



昭和48年



昭和49年



昭和50年



昭和51年



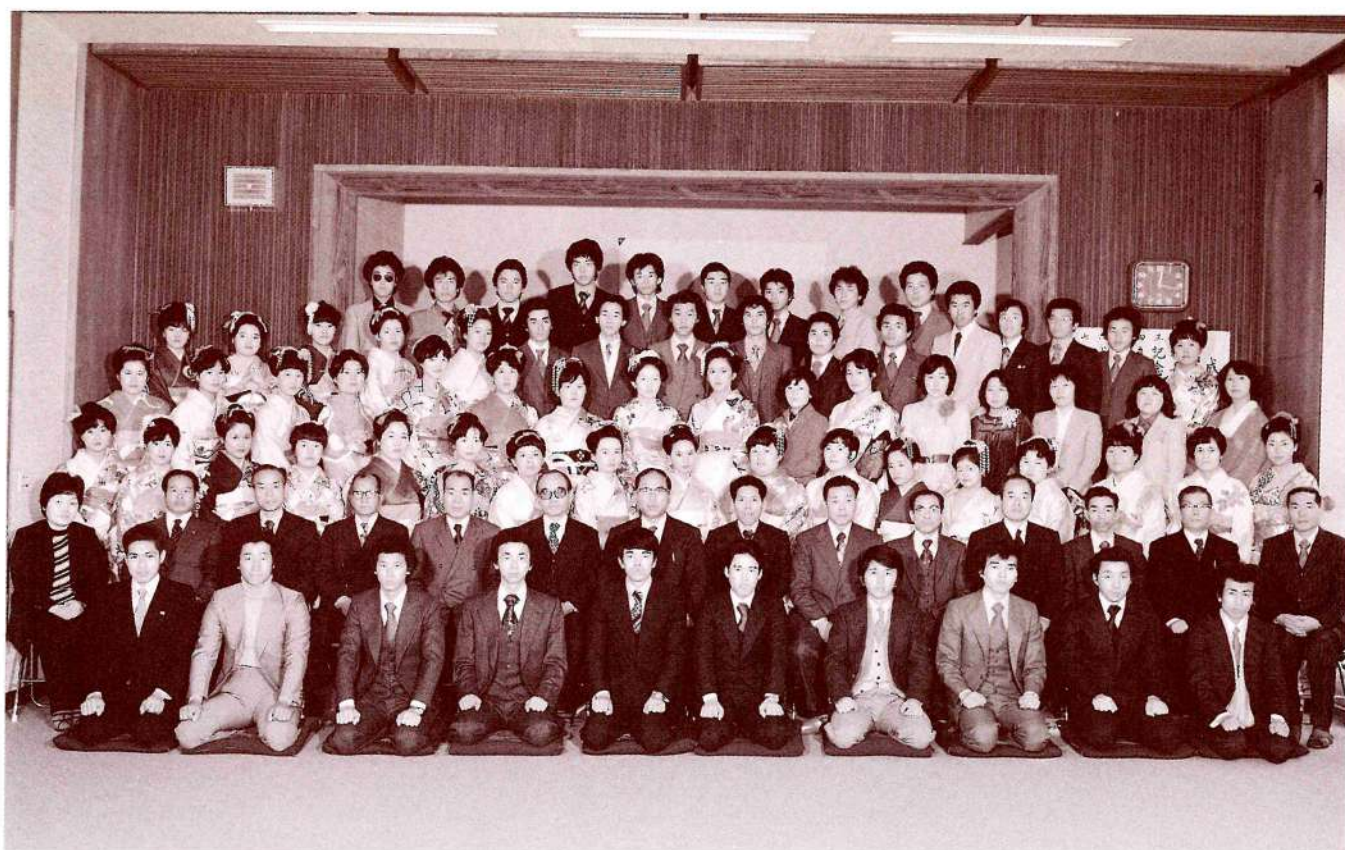
昭和52年



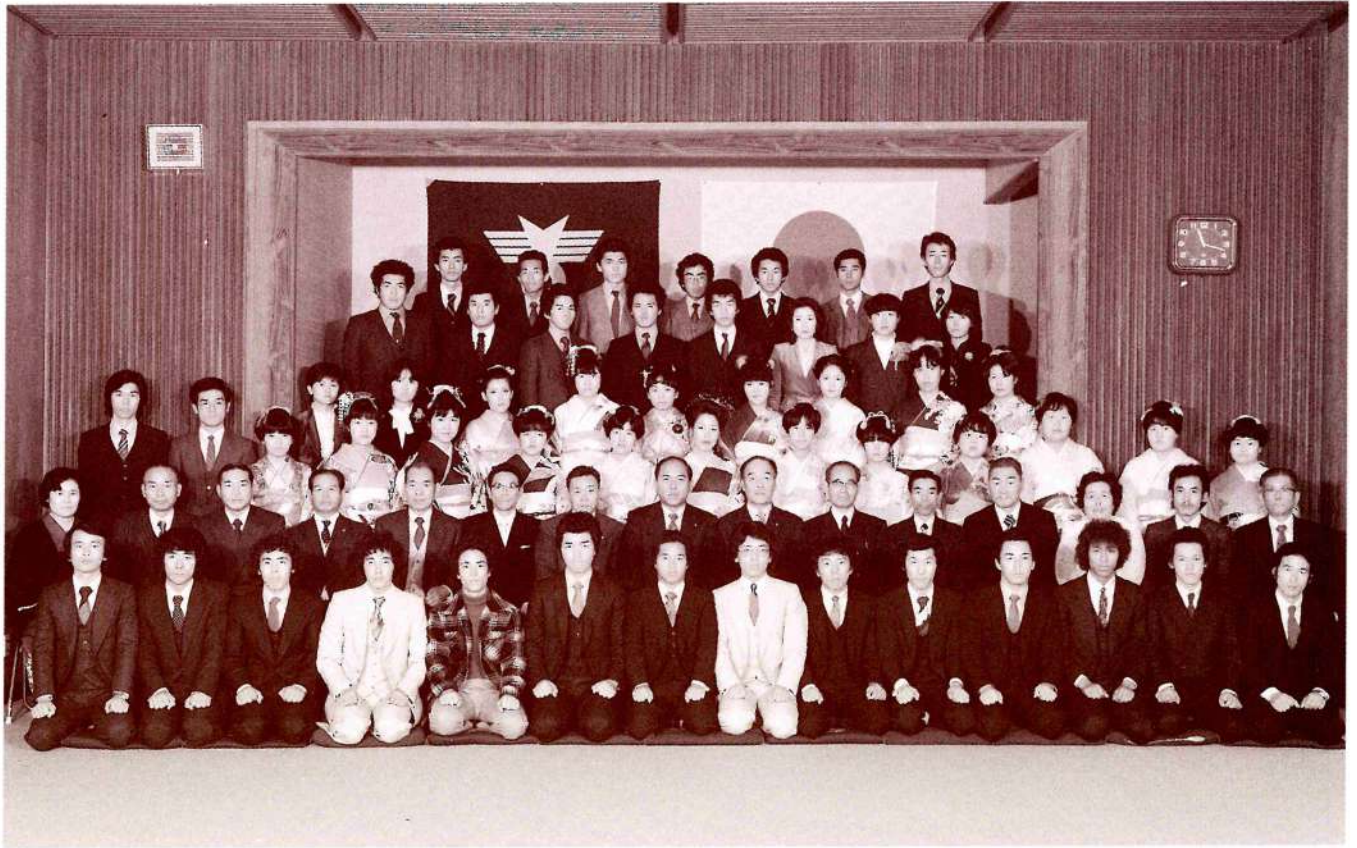
昭和53年



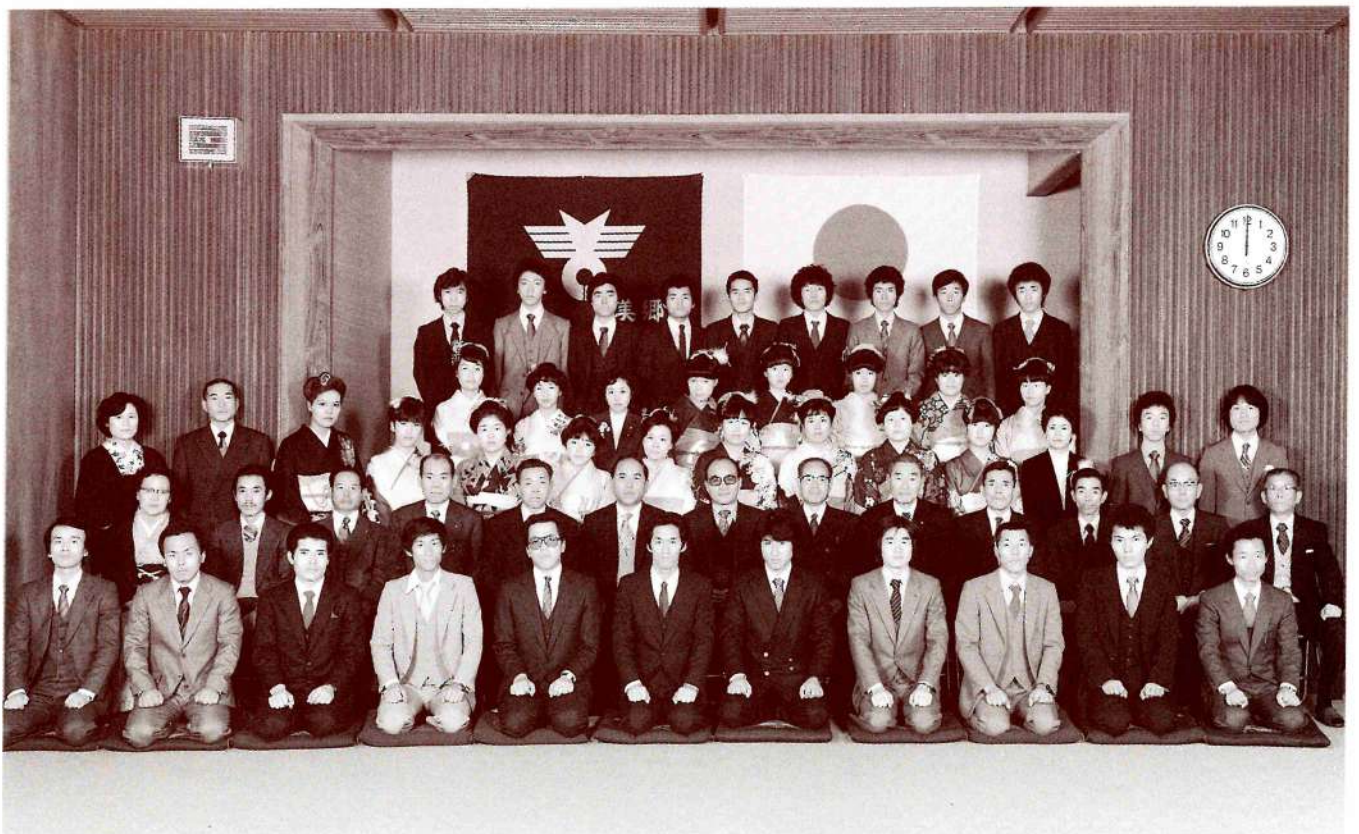
昭和54年



昭和56年



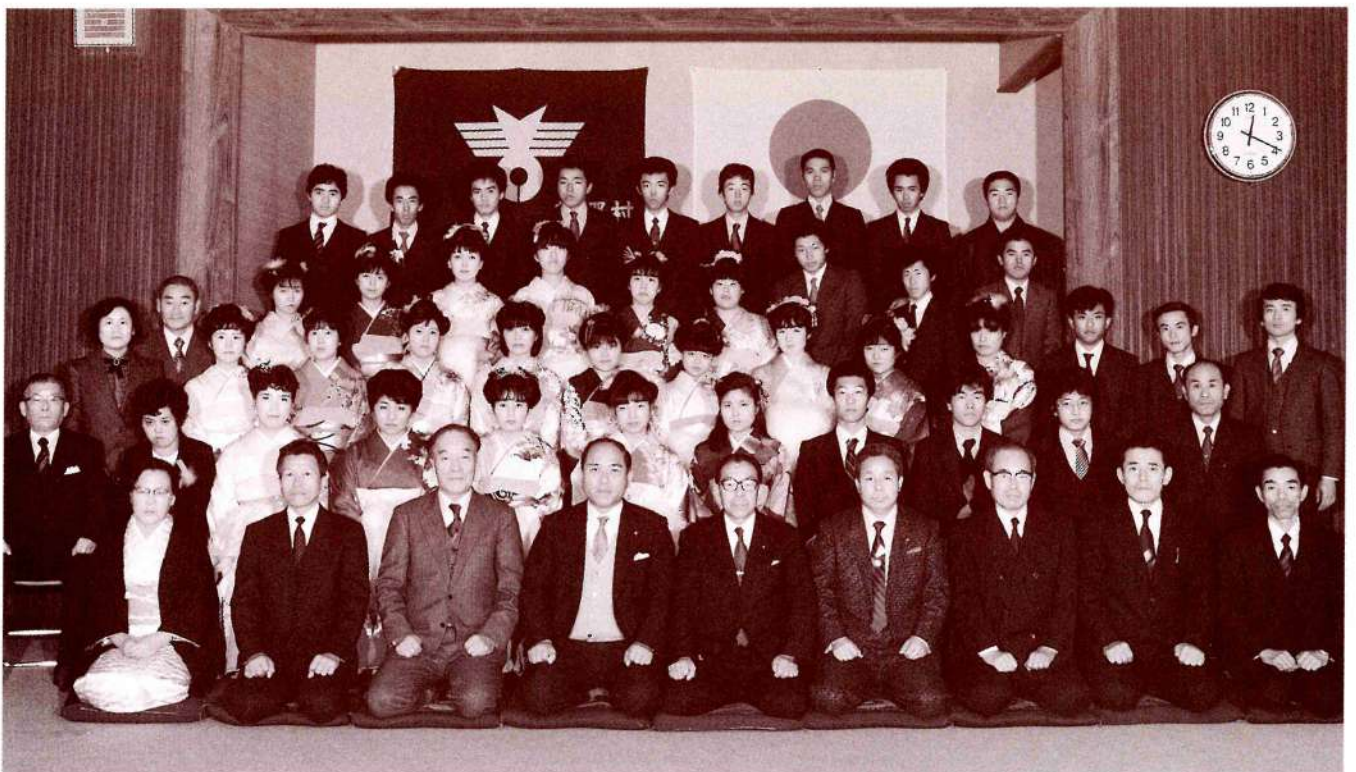
昭和57年



昭和58年



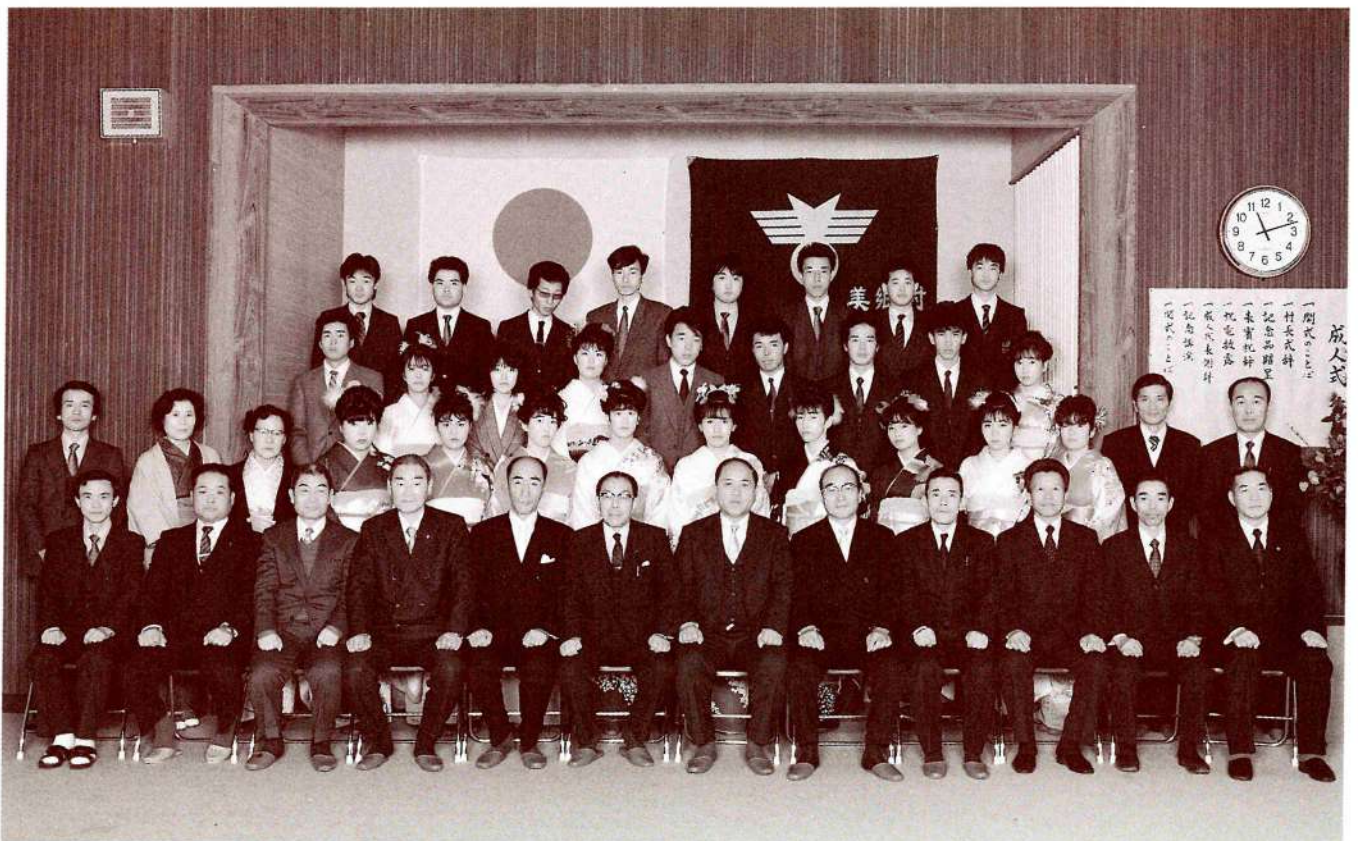
昭和59年



昭和60年



昭和61年

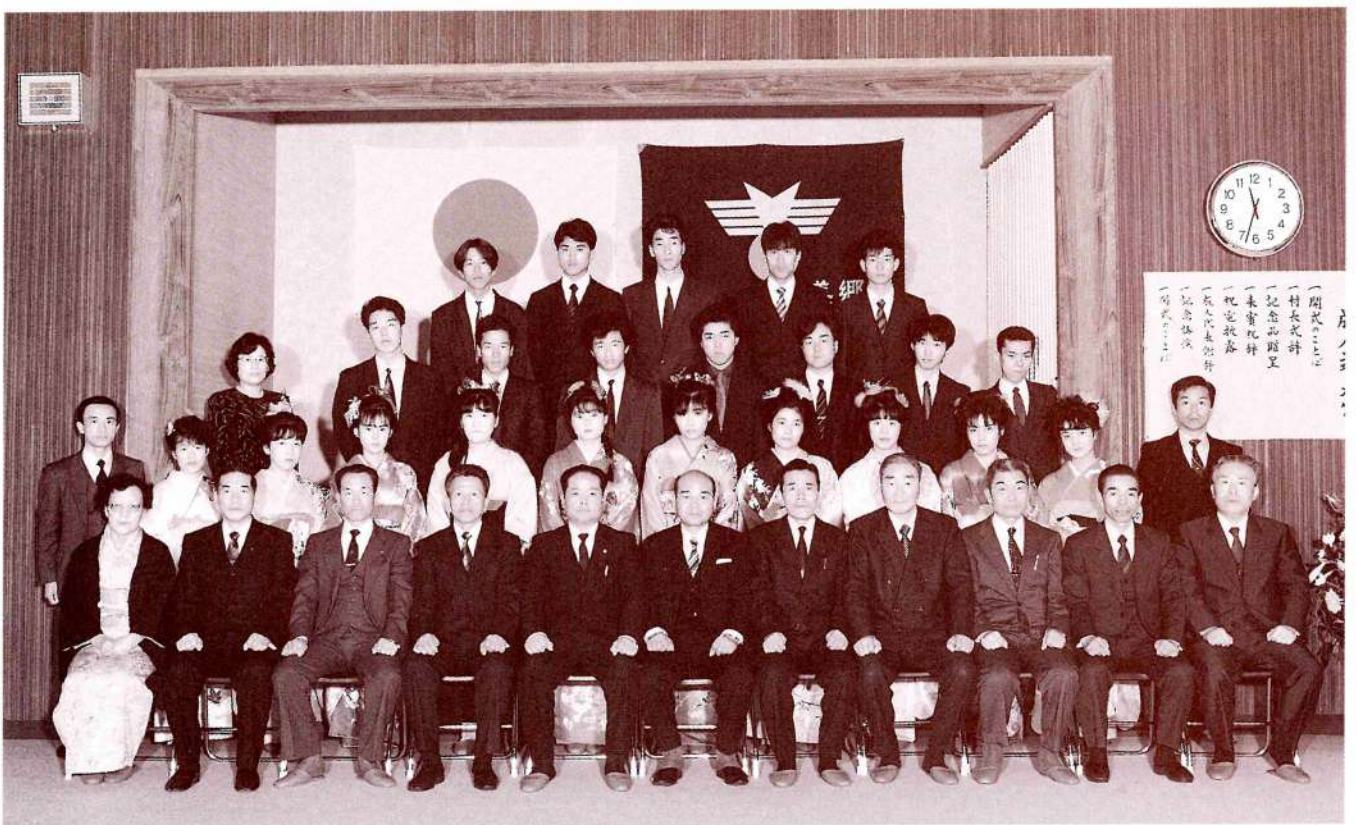




昭和62年



昭和63年



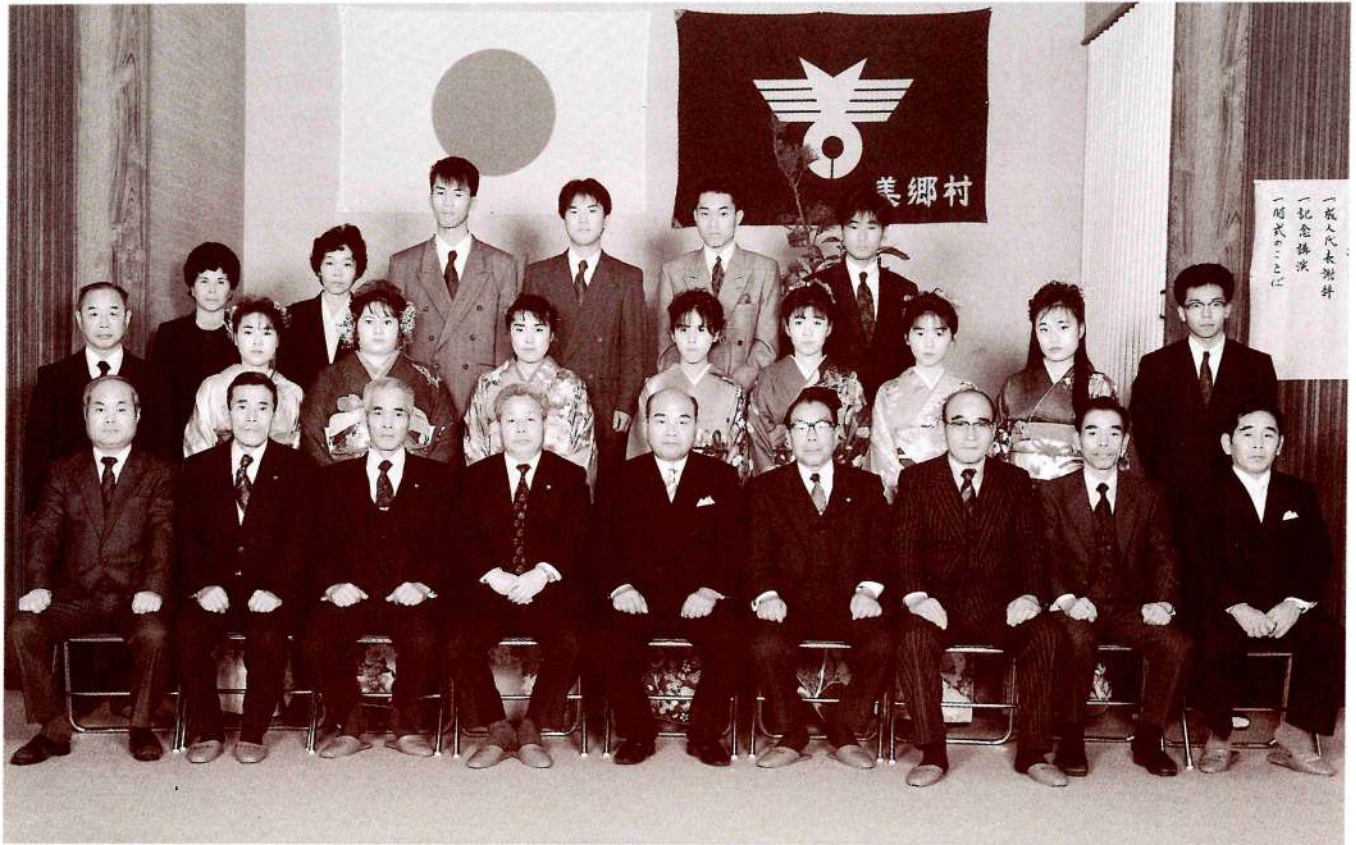
昭和64年(平成元年)



平成2年



平成3年



平成4年



平成5年



平成6年



平成7年

平成7年美郷村成人式



平成8年

平成8年美郷村成人式



平成9年

平成9年美郷村成人式



平成10年

平成10年美郷村成人式



平成11年



平成12年

平成12年美郷村成人式



平成13年

# 平成13年美郷村成人式



平成14年

# 平成14年 美郷村成人式





平成15年

平成15年 美郷村成人式



平成16年

平成16年 美郷村成人式



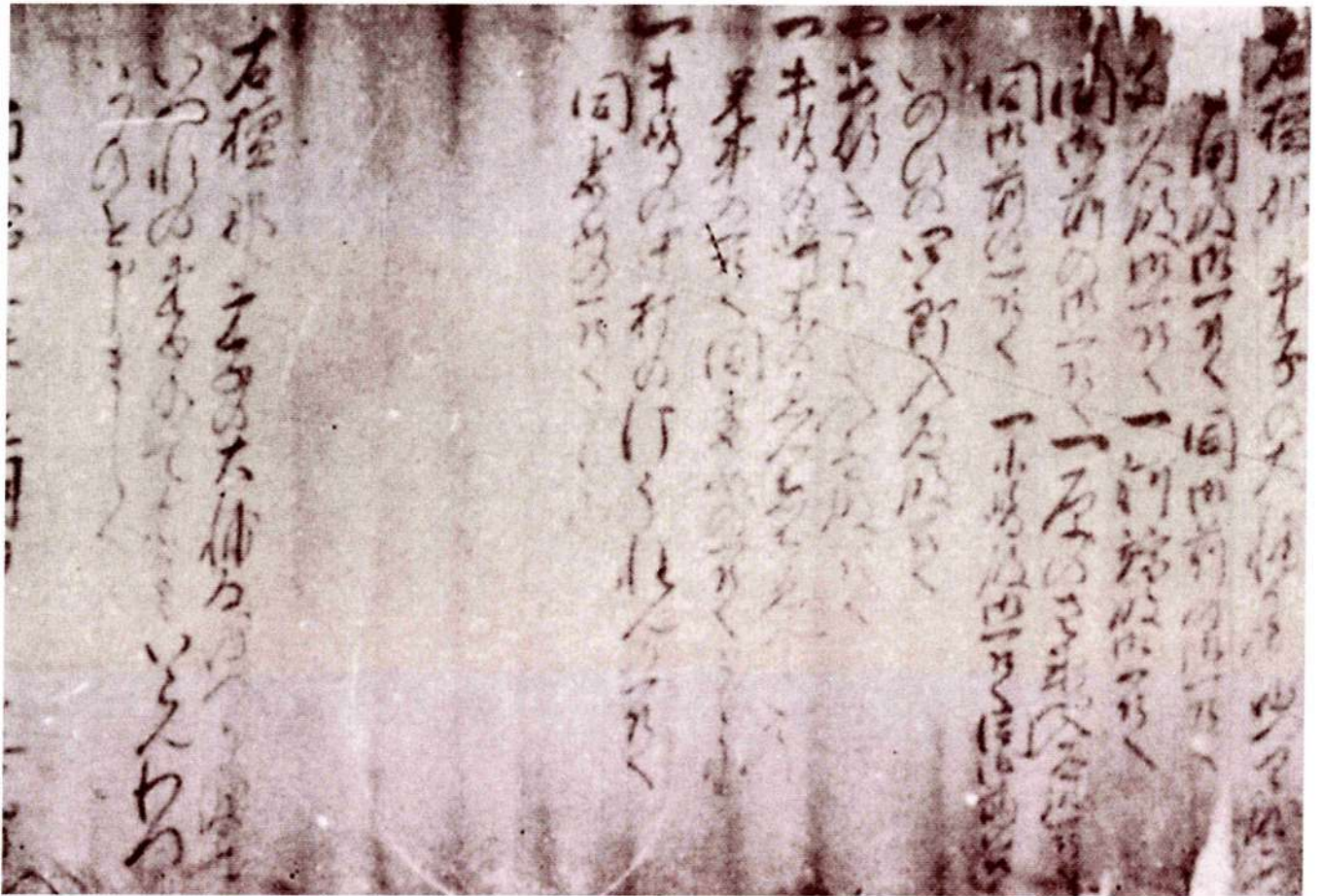
# 史跡・文化財・民俗



# 史跡

平安時代から、種野山荘として開けた歴史をもつ美郷村には、その歴史を物語る史跡が数多く残っています。

熊野信仰を伝える仙光寺文書や南北朝時代の板碑、新田義宗・義治の阿波往来伝説に始まる新田神社、南北朝から桃山時代に作られたといわれる五輪塔群など、山里の風景の中に歴史の足跡が点在しています。



仙光寺文書



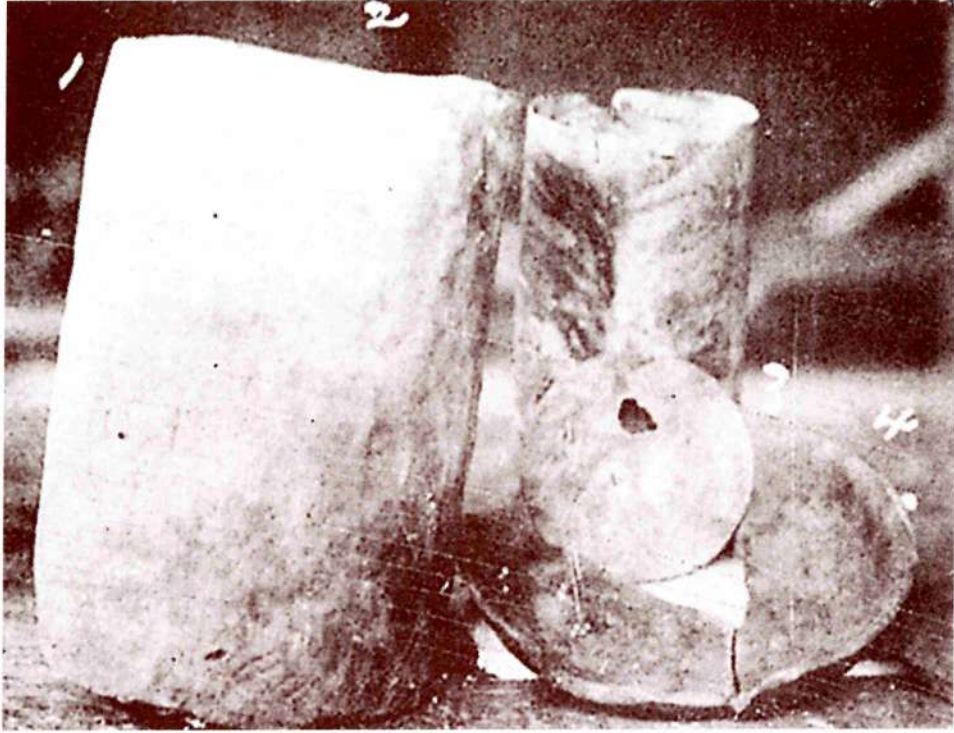
薬師堂



猪井知四郎太夫宗善の碑



上谷の板碑



美奴間神社の経筒



東山の板碑

# 文化財

平安時代から、種野山荘として開けた歴史をもつ美郷村には、その歴史を物語る史跡が数多く残っています。

熊野信仰を伝える仙光寺文書や南北朝時代の板碑、新田義宗・義治の阿波往来伝説に始まる新田神社、南北朝から桃山時代に作られたといわれる五輪塔群など、山里の風景の中に歴史の足跡が点在しています。



武田権現



道祖神



左馬亮神社



大銀杏



大松



庚申塔



後藤田家屋敷



庄屋園井家



尾崎家石倉



西村家



能面8枚



谷の四つ足堂



幾五佐衛門の墨壺



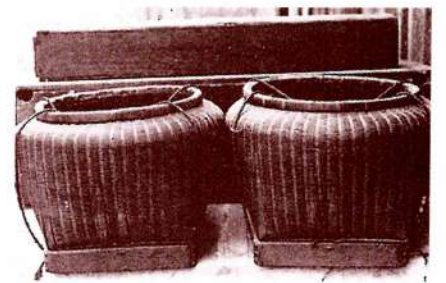
冑と鎧



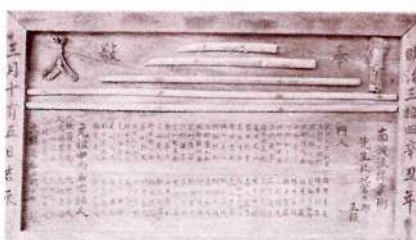
七福神



神輿



古道具

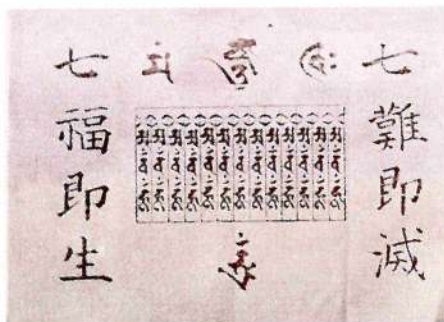


広旗八幡奉納額

あちらこちらに残るお堂は、かつて村人の集いの場でした。文化年間から弘化年間の名匠・藤原幾五左衛門政光が彫った唐獅子の墨壺や龍の模型や西村家の鏡など、貴重な工芸品や民具なども数多く残っています。秋まつりに奉納される獅子舞やだんじりと夏祭りのまわり踊りなど、親から子へ、子から孫へと受け継がれてきたもので、貴重な文化財です。

# 民俗

人がこの世に誕生して、一生が終わるまでの間、  
 節目節目にさまざまな行事を行います。  
 独特の風習があったり、昔ながらのしきたりがあったり、  
 土地土地の暮らしの中に伝統が息づいています。  
 正月から大晦日まで、季節ごとの行事では、  
 昔ながらの豊かな生活文化が大切に守られています。  
 それらは先人たちの知恵であり、伝えたい貴重な財産です。



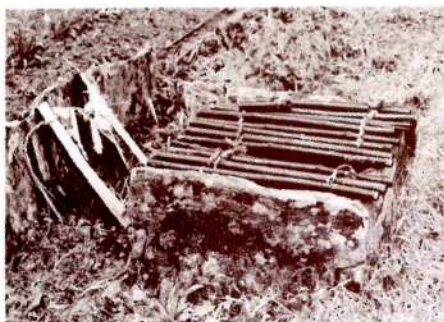
年の暮に来るお礼(寺より)



屋敷内にある祠の注連飾り



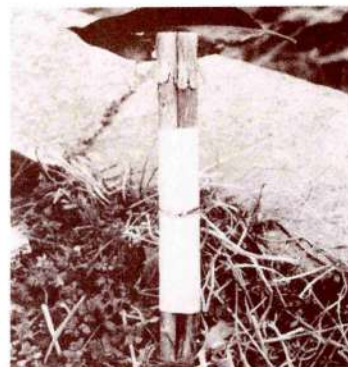
伊勢より来る天照  
皇太神宮のお守り



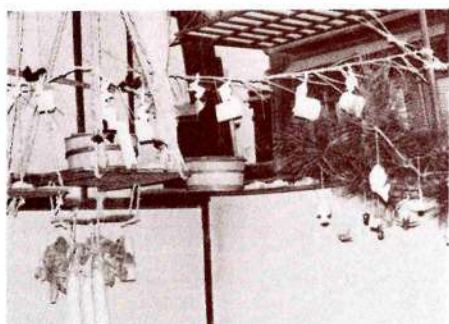
大晦日にする泉のお注連



旧暦大晦日に建てる門飾り(門松)



旧正月十五日朝  
歳徳神を送るカユ杖



大晦日にする歳徳神恵方棚



大晦日にする床飾り



三番叟

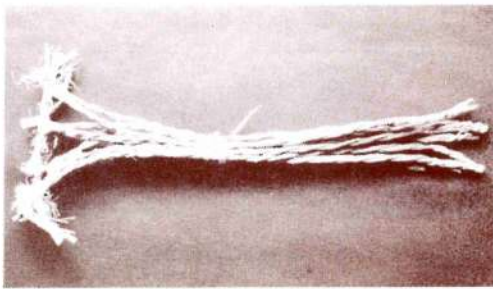




旧正月四日 畑の鎌初め



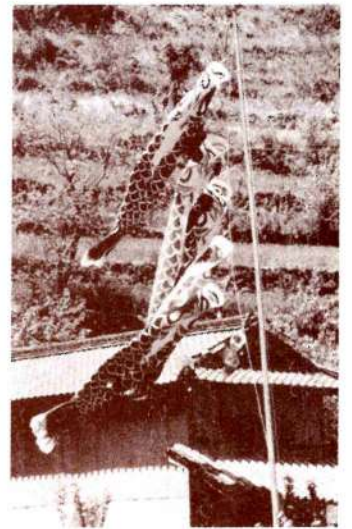
旧正月四日 山開き山の口あけ



旧正月十四日 お祝そうの銭さす



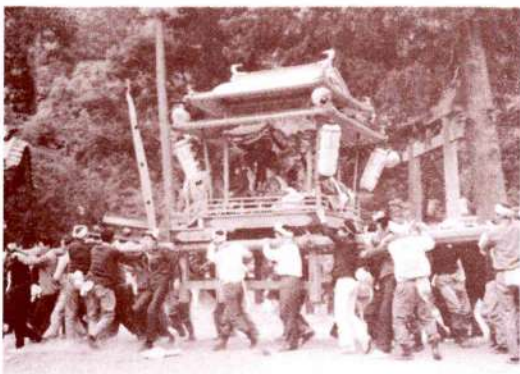
御祈祷のため僧が各戸をまわっているところ



五月鯉幟



祈禱おどり



宮倉八幡神社の祭礼風景



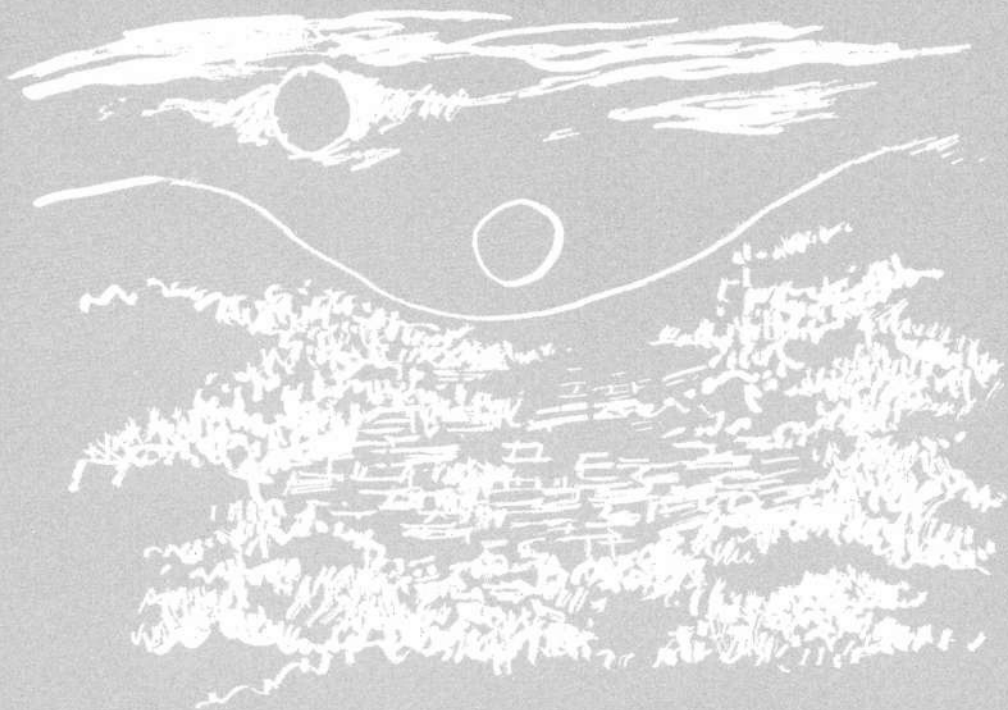
わらばて



## 月野 お月様がおりてきた土地

昔、天上にはお月様が二つあったそうです。一つのお月様が、景色がよいのを気に入って、明るい光を放ちながら、在所の真ん中におりてきました。そのはずみで、今まで山であったところが、ちょうどすりばちのようになだらかな傾斜のある、広い土地に変わりました。

村人はたいそう喜んで、そこにりっぱなお宮をたてて、月の神様「月読命(つきよみのみこと)」をおまつりし、ここを「月野」と呼ぶようになったそうです。



月野は美郷村で最も高いところにある集落で、はるか吉野川北岸の阿讃山脈から阿波、麻植、美馬が見渡せる景色のよいところです。集落の中央に緩やかな傾斜の畑地がひろがり、月が降りたところだと伝えられています。神社は昭和の初めに広幡八幡神社に合祀され、お宮の跡は「中屋の窪」と呼ばれ、元の社殿の石が積み重ねられています。

## 平家伝説

**美** 郷村には平家伝説がたくさん残っています。

平家の落ち武者ののろいで清水が毒水になったという「刀研ぎ場」、平家を追ってきた源氏の侍たちが、けわしい山道を見て、平家の待ち伏せにあったら勝ち目はないと退きあげた「退きが窪」、落ち武者たちが小休止し、後続部隊を待つ間に相撲を取って、つかの間の平和を楽しんだという「土俵が窪」、道に迷い、源氏の追っ手にみづかり自害した平家の侍を哀れんで、村人がまつたと伝える「平家さんのお墓」、平家の落ち武者がのどをうるおし、硯や矢立に水をうけて、これまでの出来事を記録したという泉。この泉はどんな大日照りにも涸れないそうです。

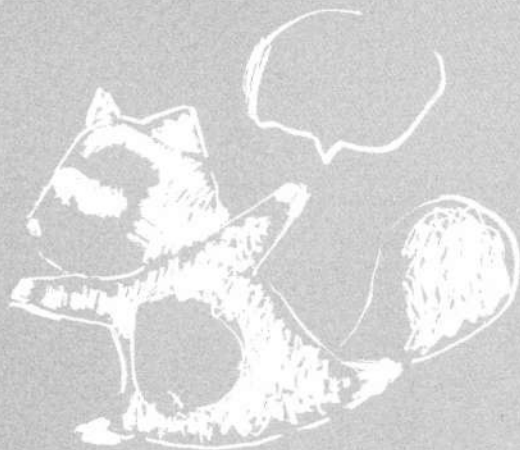


## いたずらタヌキ

**檜** 平の大杉の大木倒し雨の降りそうな晩などに、この大杉の下を通ると、木を伐る音がして、「そら、かやるぞ。はよういとれよ」という声とともに地

ひびきを立てて大杉が頭上に倒れてきます。これは大木倒しといういたずらタヌキの仕業。

東山の上谷の古森にも、「古森の大木倒し」というタヌキがすみついているそうです。



# 資料編

---

# MISATO DATA

位置・地勢・気候	59
人口	60
産業	61
議会	62
行政	63

## 位置・地勢

美郷村の中心部は北緯34度1分、東経134度15分の地点にあり、村域は東西13km、南北8km、総面積50.47km<sup>2</sup>である。四国山地の山稜に囲まれた典型的な山村で、山稜を越えて北は山川町、川島町に接し、南は木屋平村を経て剣山山脈に連なる。南東部は柳水峠の稜線を持って神山町と境をなし、村の中心部を流れる川田川に東山谷川が合流して吉野川中流に注いでいる。地勢は概ね北部で険しいが、川田川から東山谷川を通り大野を経て柳水庵に至る線以南は穏やかな傾斜地となっている。



## 地質・気候

地質は、基盤岩類としての三波川結晶片岩層と、それを覆う段丘礫層（洪積層）および現地の砂礫層（沖積層）よりなる。沖積層は東山谷川などの河川によって運搬されてきた礫層を主とするが、山地斜面には地すべりによってできた崩積土がある。

気候は概ね温暖で平均気候15.0℃、年間降雨量1,642mmであるが冬季積雪をみることがある。

# 人口

総人口

平成16年総人口1,392人

## ●5歳階級別人口

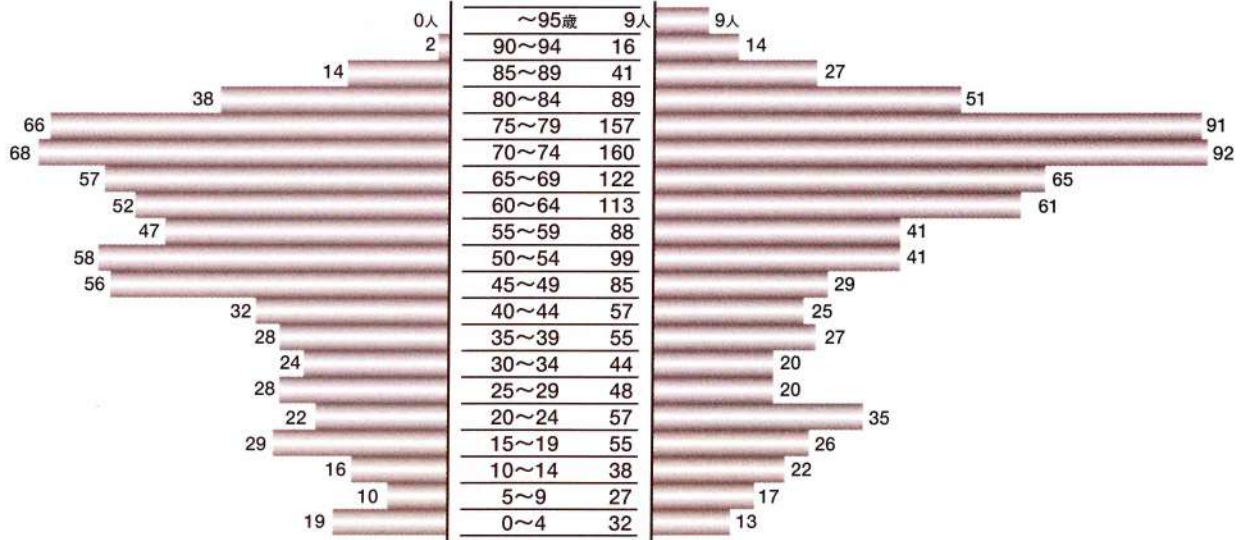
男性人口 (人)

666人

年齢別人口

女性人口 (人)

726人



## ■人口の推移

(国勢調査)

年次	世帯数	人口			1世帯当り人口
		男	女	総数	
昭和30年	913	2,637	2,651	5,288	5.8
昭和35年	887	2,372	2,435	4,807	5.4
昭和40年	818	1,949	2,038	3,987	4.9
昭和45年	779	1,598	1,704	3,302	4.2
昭和50年	693	1,218	1,332	2,550	3.7
昭和55年	634	1,081	1,175	2,256	3.6
昭和60年	597	944	1,012	1,956	3.3
平成2年	579	872	976	1,848	3.2
平成7年	542	775	882	1,657	3.1
平成12年	501	677	740	1,417	2.8

## ■人口の動態

年次	自然動態		社会動態		婚姻	離婚
	出生	死亡	転入	転出		
昭和30年	137	64	172	281	35	7
昭和35年	79	58	98	221	39	1
昭和40年	29	30	380	540	24	0
昭和45年	14	48	169	349	12	1
昭和50年	19	37	75	308	11	1
昭和55年	18	29	72	108	14	0
昭和60年	14	18	54	92	6	2
平成2年	16	14	61	80	6	0
平成7年	8	20	39	76	6	0
平成12年	8	25	36	46	7	2
平成15年	5	28	28	48	5	5

# 産 業

MISATO

## ■産業別人口

(国勢調査)

区分		昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
第1次産業	農業	1,138	603	592	477	367	297	255
	林業	23	62	27	32	23	16	20
	合計	1,161	665	619	509	390	313	275
第2次産業	建設業	132	198	216	169	160	148	118
	製造業	187	192	197	179	190	135	105
	その他	9	12	7	8	9	8	2
	合計	328	402	420	356	359	291	225
第3次産業	卸小売業	105	96	119	81	91	78	72
	運輸通信	52	40	34	30	30	33	23
	サービス	92	65	87	107	96	106	108
	公務	39	47	49	42	44	39	41
	その他	7	5	3	2	7	6	6
	合計	295	253	292	262	268	262	250
統計		1,784	1,320	1,331	1,127	1,017	866	750

## ■産業別事業所

(国勢調査)

年次	建設業		製造業		卸小売業		サービス業	
	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数
昭和53年	26	158	18	151	44	97	29	90
昭和56年	22	152	22	155	36	76	28	101
昭和61年	17	191	19	116	37	81	29	115
平成3年	17	167	15	74	29	61	29	106
平成8年	15	142	11	67	23	56	26	117
平成11年	21	189	11	49	21	39	17	49

## ■農家数及び経営耕地面積

(センサス)農家数(戸)、面積(ha)

年次	農家数				経営耕地面積			
	専業	兼業		総数	田	畑	樹園地	総数
		第1種	第2種					
昭和45年	44	286	324	654	73	126	151	350
昭和50年	51	205	287	543	43	66	159	268
昭和55年	70	90	320	480	34	47	143	224
昭和60年	90	64	294	448	29	45	155	229
平成2年	110	55	227	392	24	41	133	198
平成7年	114	49	163	326	19	40	106	165
平成12年	-	-	-	284	14	45	72	131

## ■主要な農産物

(阿波麻植の農業)面積(ha)、収穫量(t)

年次	養蚕		うめ		すだち		茶		水稲		たばこ	
	養蚕面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量
昭和50年	120	77	119	209	5	25	35	20	46	125	13	39
昭和55年	124	75	85	425	5	31	36	43	26	68	6	15
昭和60年	124	68	63	287	7	56	35	93	22	73	3	7
平成2年	94	41	60	531	8	71	14	44	21	65	-	-
平成5年	78	21	67	522	12	83	11	37	19	55	-	-
平成7年	31	11	68	710	(12)	(72)	15	18	19	64	-	-
平成12年	13	2	60	447	11	135	14	13	12	41	-	-

( )内は平成6年

## ■林作物

森林面積

(県林務課調)面積(ha)

年次	総数	人口林	天然木	その他
昭和55年	4,058	2,522	1,432	104
昭和60年	4,060	2,556	1,401	103
平成2年	4,076	2,573	1,329	174
平成7年	4,139	2,575	1,481	84
平成12年	4,155	2,598	1,477	80

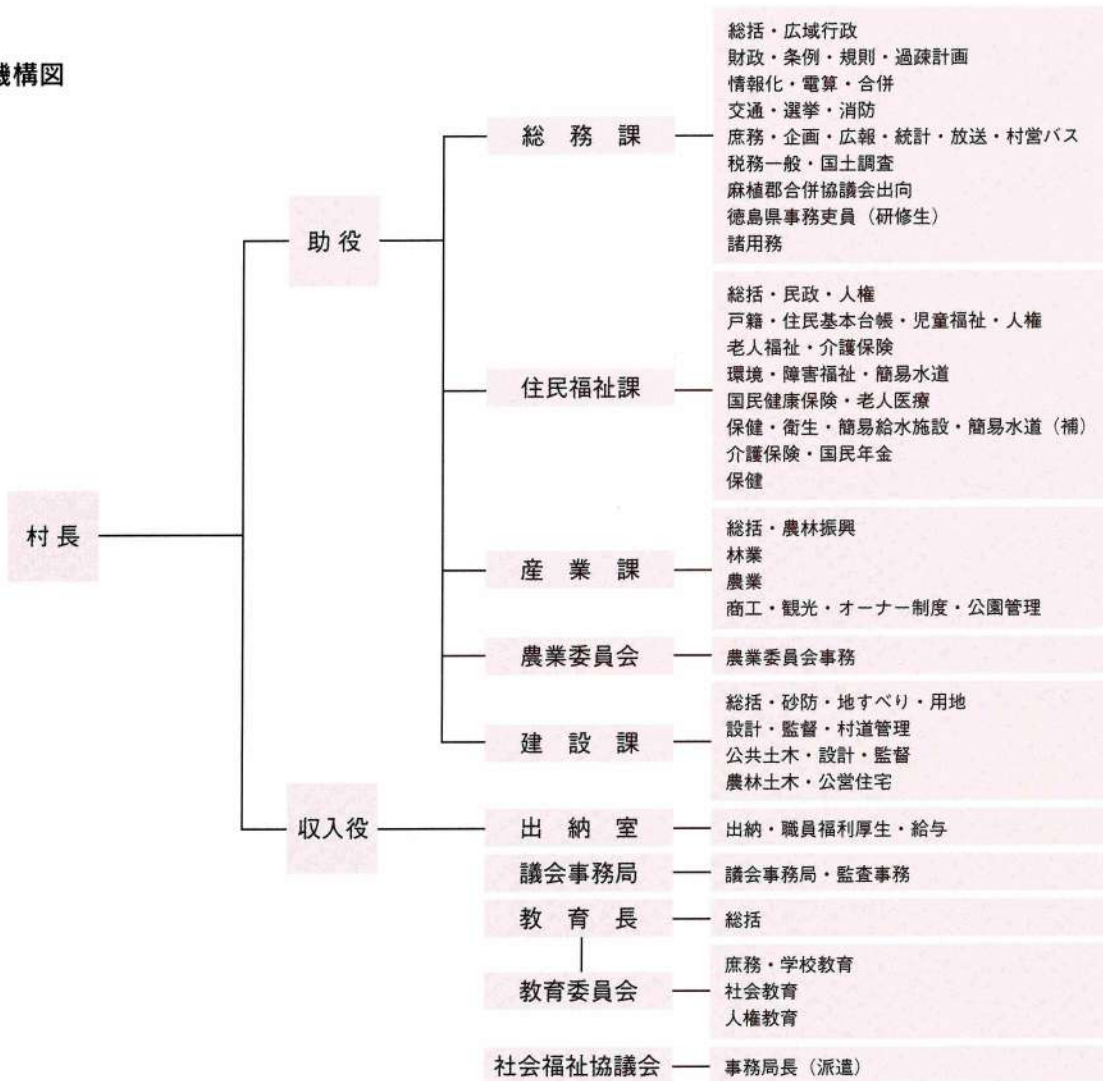
樹種別面積

(県林務課調)面積(ha)

年次	針葉樹					広葉樹		
	スギ	ヒノキ	マツ	その他	計	クヌギ	その他	計
昭和55年	1,761	312	1,072	7	3,152	30	772	802
昭和60年	1,776	340	1,048	7	3,171	30	756	786
平成2年	1,789	401	890	7	3,087	35	780	815
平成7年	1,782	553	629	7	2,970	41	1,045	1,085
平成12年	1,771	587	619	9	2,986	40	1,049	1,089

# 行政

## ■行政機構図



## ■歴代村長

順代	氏名	就任	退任
初～2代	井内熊五郎	昭30.2.2	昭38.2.1
3～5代	矢西保	38.2.2	50.2.1
6～8代	佐藤辰己	50.2.2	62.2.1
9～10代	上野喜久	62.2.2	平7.2.1
11～12代	伊井昇	平7.2.2	15.2.1
13代	河野利英	15.2.2	現在

## ■歴代助役

順代	氏名	就任	退任
初代	矢西保	昭30.3.9	昭34.2.1
初代	佐藤辰己	〃	〃
2代	矢西保	34.3.9	38.1.10
3～5代	佐藤辰己	38.3.9	49.12.13
6～7代	輝尾節	50.3.9	58.3.8
8～9代	北浦隆則	58.3.9	3.3.8
10代	藤岡貞雄	平3.3.9	7.2.28
11代	猪井泰孝	7.3.1	11.2.28
12代	和泉隆啓	15.4.1	現在

## ■歴代収入役

順代	氏名	就任	退任
初代	福岡義行	昭30.3.9	昭34.3.8
2代	佐藤辰己	34.3.9	38.3.8
3～5代	輝尾節	38.3.9	38.3.8
6～9代	久保忠敏	50.3.9	平3.3.8
10代	南肇	平3.3.22	7.3.21
11～12代	岩佐裕司	7.3.22	現在

## ■職員数

村長部門	28人
教育委員会	8人
議会	1人
農業委員会	1人
計	38人



# 議 会

## ■村議会の組織図



## ■村議会委員とその役割

平成16年3月

氏 名	常 任 委 員 会
迎 幸 夫	◎ 総務文教委員
上野 準 二	〃
原田 由 一	〃
伊井 泰 二	○ 〃
森永 節 雄	〃
杉村 仁 氏	◎ 産業建設委員
武田 忠 義	〃
藤田 敏 雄	〃
藤村 和 行	〃
芝高 正 明	○ 〃

◎委員長 ○副委員長

## ■歴代議長

順代	氏 名	就 任	退 任
初代	大内 亀 一	昭30.2.22	昭34.2.1
2代	森本 重 利	34.2.14	35.11.5
3代	河野 庄 平	35.11.5	38.2.1
4代	上野 忠 夫	38.2.11	40.2.10
5代	森本 重 利	40.2.10	42.2.1
6代	上野 善 通	42.2.4	44.3.12
7代	吉村 貞 一	44.3.12	46.2.1
8代	尾崎 順 美	46.2.5	49.7.16
9代	和泉 君 雄	49.7.16	50.2.1
10代	和泉 君 雄	50.2.5	54.2.1
11代	和泉 君 雄	54.2.5	55.11.8
12代	上野 速 雄	55.11.8	58.2.1
13代	杉村 仁 氏	58.2.5	60.3.1
14代	後藤 定 義	60.3.1	62.2.1
15代	中山 久米男	62.2.6	平元1.31
16代	杉村 仁 氏	平元1.31	3.2.1
17代	上野 喜 典	3.2.7	5.2.23
18代	森口 孝 男	5.2.24	7.2.1
19代	藤田 敏 雄	6.3.10	9.2.17
20代	迎 幸 夫	7.2.7	11.2.1
21代	原田 由 一	11.2.5	15.2.1
22代	伊井 泰 二	15.2.7	16.2.19
23代	武田 忠 義	16.2.19	現 在

## ■歴代副議長

順代	氏 名	就 任	退 任
初代	河野 庄 平	昭30.2.22	昭34.2.1
2代	河野 庄 平	34.2.14	35.11.4
3代	迎 重 太 郎	35.11.5	38.2.1
4代	松田 豊	38.2.11	40.2.9
5代	森永 真 男	40.2.10	42.2.1
6代	天田 清 市	42.2.4	44.3.11
7代	住友 儀 一	44.3.12	46.2.1
8代	和泉 君 雄	46.2.5	49.7.15
9代	猪井 喜三治	49.7.16	50.2.1
10代	竹前 保	50.2.5	54.2.1
11代	上野 速 男	54.2.5	55.11.7
12代	後藤 定 義	55.11.8	58.2.1
13代	上野 喜 典	58.2.5	60.2.28
14代	伊井 昇	60.3.1	62.2.1
15代	細谷 福 武	62.2.6	平元1.31
16代	後藤田 敏雄	平元1.31	3.2.1
17代	藤田 敏 雄	3.2.7	5.2.23
18代	原田 由 一	5.2.24	6.3.9
19代	伊井 泰 二	6.3.10	7.2.1
20代	和泉 隆 啓	7.2.7	8.3.1
21代	森永 節 雄	9.3.6	9.2.18
22代	武田 忠 義	9.2.18	11.2.1
23代	森永 節 雄	11.2.5	15.2.1
24代	芝高 正 明	15.2.7	16.2.19
25代	上野 準 二	16.2.19	現 在

## 村長のごあいさつ

昭和30年1月、中枝村、東山村、三山村を分割統合して、誕生した美郷村は、村施行から49年を過ぎましたが、本年をもってその歴史に幕を閉じます。この歩みを顧みますと、国道の整備や高速道路の開通により、美郷村周辺の交通事情等も随分と進展しました。

またその一方では、人づくりやまちづくり、そして地域文化の発展に数々励んで参りました。この間、村の発展にご指導ご協力下さった全ての関係各位に深く感謝申し上げます。

徳島県のほぼ中央、吉野川にそそぐ川田川の上流に位置し、四国山地の山稜に囲まれ、深い緑におおわれた森、源氏ボタルが舞う清流、そして山の斜面には梅林が広がっています。そんな失われつつある素朴でやさしい自然の風景を、今後もそのままの姿で残し、ここに暮らす人々に、またここを訪れる人々に、安らぎとうるおいを与え続けていきたいと思えます。

ここに閉村にあたり、先人先輩方をはじめとした在りし日の姿や、懐かしい原風景、豊かな自然を後世に伝えるため、閉村記念誌を発刊いたしました。皆様の懐郷の一助になれば幸いに存じます。

最後に、美郷村に心を寄せ培ってこられた全ての皆様、そして全ての村民の皆様に対し、心から感謝申し上げますと共に、未来永劫に亘り、明るく元気のある地域として一層発展していくことを心から念願し、ご挨拶といたします。



村長 河野 利英

美郷村閉村記念誌

# 郷の記憶

- 発行日 2004年 9月
- 企画編集 美郷村総務課企画係
- 発行 美郷村  
徳島県麻植郡美郷村字川俣7番地1  
電話/0883-43-2111 FAX/0883-43-2506  
ホームページ:<http://www.tcu.or.jp/misato/>  
メール:misato@tcu.or.jp
- 制作 株式会社 きょうせい



